

# うける! 雑学

著  
日本博学倶楽部



ひとネタで、相手の心をすぐつかむ  
うける！雑学

日本博学倶楽部

まえがき

——「えっ、マジ!」と言わせるネタの数々!

他人とのコミュニケーションに自信がない人が多いせい、近頃、話し方の本がブームである。確かに毎日の生活のなかで、**人と話をしない日はない**。上司との打ち合わせ、同僚との飲み会、取引先の接待、友人とのコンパ、ご近所同士のコーヒーマイク……。相手や場所は違えど、誰もが「話しじょうずになりたい」「他人からウケたい」「話のおもしろい人と言われたい」と思っている。でも、いくら話し方を身につけたところで、ネタがなければ何も話せない。**話し方も重要だが、話すネタも重要なのだ。**

ちまた

ところが、「なにを話してよいかわからない」「ネタを仕入れる時間がない」「巷にあふれる雑学本をいちいち読むのは面倒だ」というワガママな人がいる。そんな人の助っ人となるのが本書である。

「えっ、うそ——!」「マジ!」と、思わず相手が身を乗り出すネタを用意した。ウケること間違いなしである。

会話のきっかけに、合間のつなぎに、会話を盛り上げるスパイスに、本書のネタは大活躍すること請け合いだ。

本書の使い方は以下の通り。読む際の目安にしていたただければ幸いである。

◆とても忙しいとき／ひとりで相手を惹きつけた<sup>ひ</sup>いとき

表ページの導入部分を見て、裏ページの太字部分だけを読む。その時間、わずか数秒。これだけでネタの肝はつかめる。すぐくせっかちな人向け。

◆時間が少しあるとき／相手をちょっと唸<sup>うな</sup>らせたいとき

裏ページの解説をひと通り読む。一步踏み込んだネタやその背景、理由などが1ページ完結でわかる。ネタの内容を深く知りたい人向け。

◆時間を持って余しているとき／相手が博学を自認する人のとき

裏ページの解説の下にある「ひと口コラム」まで目を通す。本文でこぼれたネタやウラ話が手に入る。雑学本にももの足りなさを感じている人向け。

このように本書は、相手や状況に応じて使い分けられる、いわば「使える雑学本」である。会話のきっかけに、本書をぜひ役立ててほしい。

最後に、取材に快く応じていただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

日本博字倶楽部

## 目次

まえがき

- I 「ウソでしょ!？」と言いたくなるマサカの事実
- II 関係者も知らなかった仰天の事実
- III 今すぐこの目で確かめたくなる衝撃の事実
- IV 1週間は話題に困らない意外な事実
- V 読み出したら止まらない驚きの事実
- VI 思わず聞き耳をたてる赤裸々な事実

I 「ウソでしょ!？」と言いたくなるマサカの  
事実

選挙で2人の候補者が、もし同じ得票数だったら……

選挙で2人の候補者が、もしも同じ得票数の場合、いったいどうなるのだろうか？ テレビの選挙速報を見ながらこんなことを考えたことはないだろうか。

この場合、ちよつといい加減な気もするが、

**くじ引きで決める。**

公職選挙法第95条2項では、「選挙会において、選挙長がくじで定める」とある。この「選挙長」には、立候補の届出受理や当選者を決定する役割があり、通常、選挙管理委員長が選ばれることが多い。

実際にはあまりなさそうな気がするが、この法律に基づいてくじ引きが行なわれたことがある。最近の例では、1995（平成7）年の東京都豊島区議選。最下位当選者が同得票数で並んだのだ。このとき、選挙長がくじを引いて、ひとりを選、もうひとりを落選とした。

もっとも、くじ引きでの落選者には「特典」がある。欠員が出た場合、次点候補者が繰り上げとなるのは、通常は3カ月（90日）以内だが、くじ引きでの同得票数落選者は「任期中」、つまり衆院選の場合で4年間まで繰り上げが有効となる。

## 上野動物園のラクダは昔……

ラクダがはじめて靴を履いたのは、1966（昭和41）年9月20日のこと。

このラクダは特別におしゃれだったのではなく、足の裏の皮膚が異常に分厚くなる病気にかかってしまったため。手術などの手当てをしたがなかなか回復せず、とても痛そうだったという。

これを見かねたある靴屋さんが、ラクダに革靴をつくってプレゼントしたのである。喜んでしばらくは、

**靴を履いていた。**

しかし、なにしろ相手はラクダである。最初の靴は、1カ月ほどで底が抜けてしまった。

仮縫いひとつするのにもたいへんだったが、それでもこの靴屋さんは諦めず、その後も数回靴をプレゼントしたという。

結局、靴屋さんの想いは届かず、このラクダは足の病気のために、1973（昭和48）年7月9日、安楽死の処置となってしまった。

シンクロナイズドスイミングの女性選手の髪の毛は……

オリンピックでつねに上位に入ることもあり、シンクロナイズドスイミングに対する日本人の関心は高い。この競技で華麗な演技とともに注目されるのが、やはり女性選手の美しさ。

そんな選手の美を演出するために、欠かせないのがきっちり整えられた髪型である。水中であれほど激しい運動を繰り返しても、まったく乱れを見せないというのは、考えてみれば不思議。

どんな整髪料を使っているのかというと、彼女たちは市販の整髪料を使っていない。ゼリーの原料である

**ゼラチンで固めている。**

オリンピック日本女子シンクロチームにゼラチンを提供している新田ゼラチン株式会社によると、シンクロ選手が髪の毛を固めるために最初にゼラチンを使ったのは、1970年代後半のカナダチーム。

日本では、ソウルオリンピックの銅メダリスト小谷実可子選手が使いはじめ、96年のアトランタオリンピックから代表チーム全員が使うようになった。

以前はポマードが使われていたが、崩れやすかったり、水面に油が浮いたりと問題があった。水温に溶けないゼラチンが開発されると、すぐに評判が広まり、シンクロ用整髪料として定着す

バナナは……

かつては高級果物の代表だったバナナ。今では簡単に手に入るバナナだが、そのバナナがなっている「樹」は高く、1.5メートルから大きなものだと10メートルもある。

しかし大きくても、植物分類上、バナナは「シヨウガ目バシヨウ科バシヨウ属」という

「草」である。

和名もバシヨウに似ているので「ミバシヨウ（実芭蕉）」と呼ばれている。

世界には300種類以上のバナナがあるが、栽培種の多くは種なしで、土のなかで根を張って伸びていく。植えてから約1年で花が咲いて実がなり、収穫後、樹のような草を切り倒すと、根元から新しい芽が出てまた実がなるという具合。

幹を切っても年輪はなく、葉が何重にも重なっているだけだ。

日本のように果実を生で食べるだけでなく、外国ではさまざまところで用いられている。雄花や若芽は野菜として、根茎は家畜の飼料に、また繊維部分は布やマットになったりする。さらに、葉は食料品を包むのに使ったりと、とても重宝する「草」なのだ。

【ひとコラム】

日本一の富士山、その山頂付近の土地は……

日本を代表する風景と言えば、やはり富士山である。外国人や海外暮らしが長い人にとっては、日本を思い描くのに欠かすことのできない存在。また、公共の場所であれマンションであれ、富士山が見えるというだけで価値がぐっと上がる。

そんな山だからこそ、富士山は公共の財産だと思っている人は多いだろう。しかし、富士山の頂上付近一帯の土地は、

**私有地である。**

富士山の8合目から上は、正式には浅間神社の土地。江戸時代にこの土地を所有していた徳川家康が、噴火の神を祀った浅間神社に寄進したのだ。その記録は、古文書としても残されている。

明治から昭和にかけては国有地として管理され、戦後に国から神社へ返還された。しかし、一部しか返還されなかったため、浅間神社は名古屋地裁に提訴。1974（昭和49）年に最高裁判所は浅間神社の所有地として認定している。そして30年後の2004（平成16）年に、正式に国から神社へ土地が譲与されることとなった。

フランシスコ・ザビエルの2度目の来日は……

フランシスコ・ザビエルは、じつは3度来日している。1度目は誰もが知っているように、戦国時代の1549（天文18）年のこと。

東洋にキリスト教を伝える役目を任されたザビエルは、2年3カ月間にわたって日本に滞在。布教活動を終えて日本を去った1年後の1552（天文21）年に熱病により中国で死亡した。

しかしそのザビエルが、なんと1949（昭和24）年、死後400年たって再び日本を訪れているのだ。と言っても、来日したのは、

**彼の右腕だけだった。**

ザビエルの遺体は埋葬されたのに腐敗せず、インドのゴアにあるボム・ジェズ大聖堂に今も保管されている。

死体が腐らないのは奇跡だと、右腕だけが切り離されてローマのジェズ教会に安置されていた。この右腕が、ザビエルの来日400年を記念して日本へとやってきたのだ。

この右腕は1999（平成11）年にも日本に来ており、これが3度目の来日となる。「右腕からは、今もなお生命的なものを感じる」とザビエル協会の人は語っている。

サンドバッグのなかに……

ボクシングなどで練習用に使用するサンドバッグ。その名前から、「中身は砂」と思い込んでしまうが、じつはそうではなかった。

砂は入っていない。

ボクシング用品メーカー「ウイニング」に尋ねたところ、サンドバッグの中身は、フェルトやメリヤス、ナイロン生地、スポンジなどで、砂は一粒も入っていないという。

サンドバッグは近代ボクシング発祥の地、イギリスから船乗りによって広められた。イギリスの船乗りたちは、大好きなボクシングを船旅の間もできるようと、船にサンドバッグを持ち込んでいた。この慣習がヨーロッパ各国の船乗りたちにも広まり、やがて世界へと広まったようだ。

日本にサンドバッグが入ってきた当時、サンドバッグの中身は自分たちで詰め込んで完成させるものだった。

そこで砂をつめてみたものの、いざ使ってみると、しばらくして砂は底にたまってしまいサンドバッグが硬くなり、ボクサーが拳こぶしを痛めてしまう結果に……。

日本で脱獄に成功した囚人がその後……

「事実は小説よりも奇なり」と言われるが、明治時代の日本において、まさにそんな事件が起こった。脱獄した囚人が、

**裁判官になってしまった。**

脱獄犯から裁判官に転身したのは、渡辺魁<sup>かい</sup>という人物。彼は1880（明治13）年、当時勤務していた長崎の商社で資金を着服。現在の業務上横領の罪で無期懲役の刑に服していた。しかし脱走をはかり、2度目の挑戦で成功。

父親の勧めで名前を辻村庫太<sup>くらた</sup>と変えて大阪に潜伏し、大阪府庁地方税係へ就職することに成功する。その後、大分で新たに戸籍をつくって裁判所の職員となり、書記、判事試補と出世の階段をのぼっていく。

そして、逮捕から10年後の1890（明治23）年には、ついに判事に任命されるという栄進を遂げた。しかも、彼が判事試補のときから勤めていた裁判所は長崎。自らが罪を犯した場所で、犯罪を裁く側の人間となったのである。

だが同じ頃、辻村判事はかつての脱獄犯である渡辺魁にウリふたつだと噂がたつ。

ステンレスは……

ステンレスは「stain (さび、汚れ) less (ない)」という意味。さびは、金属が空気中の酸素と結びつく酸化によって起こる現象である。

鉄の原料である鉄鉱石は、鉄に酸素が結びついている状態。ここから酸素を還元して精製されるのが鉄だから、空気中に置いておくと本来の鉄鉱石の状態に戻ろうとする。

ステンレスはさびないように見えるが、じつは

もともとさびている。

製造過程で酸素に触れさせて、「酸化膜」または「不動態皮膜」と呼ばれる膜で保護しているのだ。言い換えれば、目に見えない透明なさびである。

この膜の厚さはわずか10オングストローム（10000万分の1センチ）。つまりステンレスは、透明なさびによって、さびるのを防いでいるというわけだ。

ということは、ステンレスは「さびない」のではなく「さびにくい」鉄。だから、膜が壊れてしまえば、当然ほかの鉄のようにさびる。鉄粉がくっつくとも膜を壊してそこからさびはじめる。

また、塩分に弱いので海岸などではさらにさびやすくなる。

昔話の浦島太郎が助けたカメは……

浦島太郎が助けたカメとは、いったいどんなカメだったのだろうか。一見「くだらない」と思えるが、探っていくとじつに興味深い。

まず、オスなのかメスなのかを検証してみよう。ウミガメのオスは生まれてから海に入ると、ほとんどの場合、一生陸に上がらない。

名古屋港水族館によると、近年はオスも陸に上がることがあるという報告が寄せられているが、それは非常に珍しいとのこと。この報告は、ハワイ諸島のリジアンスキ―島などからもたらされたものである。

その点、メスは産卵のために必ず陸に上がるといふ。

次にカメの種類はどうだろうか。浦島太郎の舞台は京都府の丹後半島というのがもつとも有力。その地域に棲息し、しかも人が乗れる大きさのカメというと、アカウミガメくらいしかない。ほかは小さなカメばかりなので、人間はまず乗れないらしい。

つまり、浦島太郎が助けた可能性がもっとも高いカメは

**アカウミガメのメスである。**

## 忠犬ハチ公の……

渋谷駅前の広場で、今も銅像となつてご主人を待ち続けているハチ公。銅像だけにつねに無言だが、

**肉声が収められたレコードが存在する。**

ハチ公の声が残っているのは『純情美談 忠犬ハチ公』と銘打たれたSPレコード。

女性の声で「ハチ公や、おまえ、雨の日、また、風吹く夜、寒い夜霧を心で泣いて、主を待つ身は、さぞ、つらかろう」という言葉のあと、男性の声で、ハチ公が11年も前に亡くなったご主人を待ち続けたことなどが語られている。

そして、最後にハチ公の登場。「ウォーン、ウォーン、ウォーン」と鳴き声が3回入っているのだが、これがなんとも言えず物悲しい。

このレコードは一般の人が所有していたものだが、現在は「忠犬ハチ公銅像維持会」が所有している。JR渋谷駅に保存されている。ヒビ割れがひどく、プレーヤーで再生することができない状態なのがちょっと残念である。

声は渋谷駅だが、ハチ公のからだもしっかり保存されている。

はくせい

東京・上野にある国立科学博物館で剥製となつて、当時のままの姿を見せてくれる。

カマキリのオスは交尾の最中にメスに頭をかじられることがあるが……

付き合った男性の懐だけでなく、身も心も粉々にしてしまう女性がいる。そして、そんな女性に惹かれてしまう男性もいる。

しかし、これは人間社会に限ったことではない。

むしろ、カマキリの世界にはもっと激しい男と女の関係がある。

カマキリのメスはオスとの交尾中、オスの頭をかじり取るという凄惨な行動に出ることがある。  
せいさん

命を差し出す形となるオスだが、こちら側の交尾にかける執念も半端ではない。頭を食いちぎられようが

**それでも交尾をやめようとはしない。**

それどころか、抑制のたがが外れてしまうことで、より激しく交尾に没頭していくという。

そして、メスに新しい命を吹き込んだところで自らの生命を終えるのだ。

交尾のあと、オスの残骸はメスに食べられ、メスと卵の栄養源になる。

カマキリの世界でオスに生まれると、こんな悲しい運命が待ち受けているのである。

モンゴル人の名前に……

「ネルグイ」「フンビシ」……。これはモンゴル人の名前である。

決してモンゴルでは珍しくない名前なのだが、その意味を知れば、ちょっと信じられない。なんと、

**「名前がない」「人間ではない」という意味の人がいる。**

「ネルグイ（名前がない）」の場合は、子どもが生まれたときに名づけ親になる父親がなんらかの理由で不在のまま、しゅっしょうとどけ出生届の期限である生後1週間が過ぎると、この名前になってしまふというのが理由のひとつ。しかしほかの名前も含め、こうした名前は親が意図的につけているケースが多い。

モンゴルには昔から、子どもが亡くなるのは魔物が取りついたためという思想がある。だから、もし魔物がやってきても「フンビシ（人間じゃないよ）」ということであれば、魔物が退散するとうわけだ。

ほかには「ヘンチビシ（誰でもない）」「エネビシ（これじゃない）」などがある。

なかには「バースト（ウンチまみれ）」という強烈な名前もあるが、これも魔物がすぐに退散するようという願いからきている。モンゴルのユニークな名前は、子どもへの親心なのだ。

銀座の数寄屋橋交差点には……

東京都総務局行政部に確認したところ、数寄屋橋交差点には実は

**住所がない。**

銀座の数寄屋橋と言えば、1952（昭和27）年にNHKラジオで放送されたドラマ『君の名は』で一躍有名になったところ。

正確に言えば、外堀通りの呉服橋から土橋の2、2キロが住所を持たない番外地なのだ。

かつてはここを川が流れていたが、現在では埋め立てられ、頭上には高速道路が走っている。

この地に住んでいる人はいないが、飲食店などの店舗が存在している。

しかし、都心なのに住所がないというなんとも不思議な場所である。

住所が決められないのは、ここが中央、千代田、港の3区の境となるからだ。

以前は、川が境界線の役目を果たしてくれたのだが、埋め立てられてしまった。一等地だけに、固定資産税などさまざまな収入が見込める。

そのため、どの区も「自分の区の土地だ」と主張して譲らない。おかげでどの区にするか決定できない状態が半世紀も続いているのだ。

指きりげんまんをして約束を破ると針千本飲まされるだけでなく……

「指きりげんまん、ウソついたら針千本飲ます」。

幼い頃、歌いながら小指同士を絡ませるようにして約束を交わした経験のある人は多いだろう。

本気ではないにせよ、約束を破ったら針を千本飲まなければならない罰が待っていることは、幼な心にも知っていたはずだ。

しかし、本来この約束にはもっと厳しい罰が待ち受けていることを知る人は意外と少ない。その罰とは、針を千本飲んだうえに、

さらに**1万回殴られる**。

まず、指きりげんまんの「げんまん」に注目してほしい。げんまんを漢字で書くと「拳万」。つまり、拳骨で1万回殴ることを意味しているのだ。

また、「指きり」はもともと江戸時代に、吉原などの遊女たちが行なった儀式のひとつ。

男性客に愛の誓いを立てる際に、約束が本気であることを示すため、遊女は小指の第一関節から先を切り落とし、その指を客の男性に与えた。

これが、約束をするときに小指を絡ませるといいうしぐさに変わったのである。

出世払いと言って借りた金は……

「出世払いで返すからお金を貸してくれないか？」。そう頼みこんで置いて時間が経過。貸したお金を返してほしいと求められたとき、「出世できなかったのだから返さない」と回答したらどうなるのか。

「出世したら……」というあいまいな期限だと、いつ訪れるのかはつきりしない。出世しなければ永遠に返済しなくていいようにも思える。

しかし、「出世しないことが決まった」ということもひとつの期限だと考えれば、いつかは必ず期限が訪れることになる。

へりくつ

屁理屈をつけて返済を免れようと画策しても、日本の法律はそれを許してはくれない。借りたものは返す。これが基本ルールだ。結局、

**出世できなくても返さなくてはならない。**

これは民法第135条が適用される。

日本では、出世払いについてこのように解釈して、出世した場合はもちろん、出世しないことが確定した際もお金を返さなければならぬとしている。

## オリンピック出場選手はオリンピックの期間中……

インターネット時代が到来し、誰もが自分の身近で起こったことや、発言したいことをネット上で公開することができるようになった。

ブログは社会に広く認知され、有名人のものは数多くの人が閲覧する。

4年に一度開催されるオリンピックの出場選手ともなると、注目度はすこぶる高い。

オリンピック会場の様子や試合後の感想などをいち早く知りたいと、選手のブログをのぞいてみようと考える人もいるかもしれない。

しかし、オリンピック期間中に出場選手は、

**自分のブログにコメントを載せられない。**

日本オリンピック委員会（JOC）によれば、選手がブログに大会中のできごとに対するコメントを載せると、オリンピック憲章に定められた禁止事項に抵触してしまうという。

選手は大会期間中にメディア・ジャーナリストとして活動することは許されていない。認可を受けた記者からのインタビューに選手として応じることはできるが、原則として自らコメントを

発表したり、ほかの選手の情報を自発的に流したりすると、たとえメダルを獲得しても剥奪の対<sup>はくだつ</sup>象になる。

日本では16歳で……

日本の法律では20歳からが成年だが、じつは女性は16歳、男性は18歳で

大人になる方法がある。

女16歳、男18歳と言えば、中学校の公民で習ったように「結婚」できる年齢だ。結婚で成年とみなされることを「成年擬制」という。

結婚すればもう大人であるという昔からの伝統が残っていて、「民法第753条」に「未成年が婚姻をしたときは、これによって成年に達したものとみなす」とあるのだ。

未成年者が結婚するには親の同意が必要だが、いったん結婚すればもう「大人」なのだから、その後で離婚することになっても今度は親の同意は必要ない。いったん結婚すれば離婚しても子どもには戻らない。

つまり10代のうちに再婚することになっても、親の同意は必要ない。

ただし、これはあくまで「民法」上の話で、たとえば親の同意なしにお金を借りたり、売買契約を結んだりすることはできる。

しかし、公職選挙法は適用されないから投票はできないし、未成年者喫煙禁止法、未成年者飲酒禁止法は適用されるので酒もタバコも楽しめない。結局あまり「大人」になるメリットはな

プロ野球のパ・リーグの試合「ロツテvs楽天」を中国語で表記すると……

これまで中国では、野球の人气が比較的低かった。しかし、野球のレベルアップが急速に進み、野球そのものに対する関心も高くなってきた。

そんな中国で日本のプロ野球を紹介しようとする、ちょっと厄介な問題がある。それは、2005年日本一に輝いた千葉ロッテマリーンズと、新規参入した東北楽天ゴールデンイーグルスが対戦したとき。両チームを中国語で表記すると、

「**楽天VS楽天**」となってしまう。

株式会社ロツテの広報室によると、1994年に同社は中国に「ロツテストーンフーズコーポリミテッド」という合併会社を設立している。

お菓子類を製造し、香港（設立当時はイギリス領）や中東諸国へ輸出する会社だが、この会社名を中国語では「楽天四通食品有限公司」と表記するのだ。この関係で、アジアではロツテと言えば「楽天」というイメージが浸透している。

このイメージを統一させるため、株式会社ロツテは「楽天」の商標登録を申請してさえいる。では、実際に両チームを中国語で並べて書くときにはどうしているのか。

## 剣道の試合で……

二刀流と言えば、まず思い出すのが宮本武蔵であろう。

彼の強さはあまりにも有名だが、剣の道という観点から見れば、なんとなく邪道のイメージが  
なくもない。

でも大の武蔵ファンも心配ご無用。全日本剣道連盟で、

### 二刀流は認められている。

したがって、全日本剣道連盟の主催する大会に二刀流で出場しても、なんら問題はない。

ただ、認められている二刀流は、大刀のほかにも、もう1本小刀が持てるというものであって、  
普通の竹刀を2本持ってよいというわけではない。

「剣道試合審判規則」によれば、一刀の場合は、大学生・一般の場合で120センチ以内、二刀  
の場合は、大刀が114センチ以内で、小刀は62センチ以内と定められている。

では、現実に二刀流の人は多いのかというと、ほとんどいない。

全日本剣道連盟によると、少しは存在するようだが、大会本戦ではここ数年、二刀流の人が出  
場した記録はないという。

山下達郎、ユーミン、サザンは人気ミュージシャンであるだけでなく……

山下達郎、ユーミン、サザンと言えば、日本を代表する人気ミュージシャンである。しかし、彼らにはもうひとつの共通項がある。それは……。

### 俳句の新しい季語になっている。

彼らの名前を俳句の季語として提案しているのは、「東京ヘッピーバーン」という句会だ。人気の高い俳人・まゆずみ 黛 まどか氏が主宰する句会で、月刊『ヘッピーバーン』を発行している。

創刊されたのは1996（平成8）年のことだが、当時から山下達郎やユーミンを季語として採用していたという。

ちなみにサザンは夏、ユーミンは冬、山下達郎は夏と冬両方の新季語になっている。

そのほかにも、映画『男はつらいよ』で渥美清が演じたフーテンの寅さんは冬というように、さまざまな新季語が提案されている。

季語というのは特別に認定する機関があるわけではない。本来は、誰もが同じ季節を思い浮かべることができる言葉であれば問題ない。

月刊『ヘッピーバーン』は、古きよき季語を大切にしながらも、時代の変化に合わせて新しい季語を生み出していきたいと考えているそうだ。

カツラを生涯隠し続けても……

頭髪が薄いことを気にして、カツラを愛用している人は多い。かつては、カツラをつけると人工的で不自然な感じが出てしまい、ひと目でカツラを装着しているとわかったものだ。

しかし、技術が発達して自然に見える製品が増えてきた。そのため、今日では生涯にわたってカツラをつけていることを隠し通すのも不可能ではない。

それでも、秘密が白日のもとにさらされる日が来ることを覚悟しておかなければならないだろう。

というのも、生涯を終え、いよいよ遺体が焼かれるというとき、カツラをいっしょに焼くことは原則的に禁止されているからである。結局は、

**火葬されるときにバレる。**

東京都のある葬儀場では、火葬する際にカツラを燃やすことは自粛しているという。その理由は、環境問題に配慮するため。人工毛のカツラの場合はその毛に、人毛の場合でも人工皮膚の部分に、それぞれ塩化ビニールが使われる。塩化ビニールは燃焼すると、ダイオキシンを発生して環境破壊の一因となってしまう。

『ねこふんじやった』は発祥の地ロシアでは……

ピアノを習ったことのない人でも、遊び半分で覚えてしまう曲と言えば『ねこふんじやった』だろうか。それだけ広く親しまれているこの曲だが、発祥の地と言われているロシアでは、

**ネコどころか「犬のワルツ」というタイトルがついている。**

大阪樟蔭女子大学の桶谷弘美助教の調査によると、世界各地でこのピアノ曲は弾かれているが、タイトルはさまざまだという。

ネコがタイトルについているのは日本のほかに韓国、ブルガリアなど。スウェーデンではブタになり、ドイツではノミに変化している。

動物のほかにも、フランスではカツレツ、スペインではチョコレートがタイトルに使われている。

推測の域を出ないものの、作曲したのは19世紀のロシアのピアニスト、アントン・ルビンシュタインだという説が有力。桶谷氏によると、彼は楽譜を残さなかったが、ツアーで渡り歩いた各国でこの曲が広がっているという。

おかしお

日本で現在知られている歌詞は、阪田寛夫によるものだが、それ以前の1954年に丘灯至夫が作詞しており、「ねこふんじやった」というタイトルも彼が名づけ親となった。

## Ⅱ 関係者も知らなかった仰天の事実

下剤と下痢止めをいっしょに飲むと……

べつにいっしょに飲む必要はまったくないのだが、下剤と下痢止めを同時に飲んでしまったら、かなりの確率で

下痢になる。

まず、両者が人間のからだにどのように働きかけるかを考えてみよう。

下痢止めは、水分の吸収力を正常に戻して便を硬くしようとする働きがある薬だ。

それに対し、下剤は腸の働きを活発にして体外に出そうとする働きがある。

薬によって成分は違うが、基本的には下剤の成分のほうが作用が強く、効き目が速い。

また、飲んだ人の体質にもよるが、一般的に人間は止めるより出すほうが簡単にできている。

つまり、下剤と下痢止めをいっしょに飲んだ場合、ある程度は相殺されたとしても、下痢になる可能性が高いというわけだ。

下剤が押し、下痢止めが土俵際で必死に押しとどめる。激しい攻防ではあるが、「この勝負、押し出しで下剤の勝ち！」というところか。

日本ではじめて蛍光灯が使われた場所は……

現在、家庭でもっとも多く使われている照明は蛍光灯である。蛍光灯は、1938年にアメリカGE社のジョージ・インマンによって発明されたというから、その歴史は100年にも満たない。

そんな蛍光灯が照明の主流になったのは、常温で発光効率が良いこと、つまり消費電力を光に変換する手段として効率的だったことが理由にあげられる。

日本で蛍光灯の製造がはじまったのは、インマンの発明からわずか2年後の1940（昭和15）年。

そして、日本で最初に蛍光灯が使われたのはその前年の1939（昭和14）年。その場所は意外にも、ある寺院だった。

その寺院とは、世界最古の木造建築として世界遺産にも登録されている

**奈良県の法隆寺である。**

東芝科学館に当時の事情を聞いてみた。昭和14年のこと、法隆寺の修理にともない、金堂内の壁画を模写することになった。

牛乳配達の人……

現在のマラソンには出場制限はない。日本陸上競技連盟によると、国際大会のマラソンでは、過去にフルマラソンで男子は2時間30分、女子は2時間35分以内にゴールしたという証明が必要（大会によって時間は異なる）だが、市民マラソンなら時間制限もなし。

アマチュアスポーツだからプロはダメということはあっても、ほかに特別な制限はないという。

ところが、大正時代はそうではなかった。なんと、牛乳配達や人力車夫、郵便配達といった仕事をしている人は、アマチュア規定に反するとされていたのである。つまり、

**マラソンの出場を禁止されていた。**

これは当時のアマチュア規定で「脚力を業とする者の参加を禁止する」とされていたから。

その結果、1920（大正9）年に行なわれた第7回アントワープオリンピックのマラソン代表選手予選会では、なんと1位から5位までが全員失格。6位の選手が繰り上げ優勝となっている。

失格の5人は全員が新聞配達などのアルバイトをする苦学生。現代ならメディアが放っておかない話題だが、当時の世情は違ったようだ。

気象情報を聞ける「177」の電話番号は……

自分が住む地域の天気予報をすぐに知りたいとき便利なのが、電話の3ケタ番号サービス。「177」をダイヤルすると、すぐに電話をかけた地域の天気予報を流してくれる。

しかしこのダイヤル番号、はじめから天気予報サービスのために設置された番号ではない。

**もともと大隈重信の電話番号だった。**

大隈重信と言えば、明治政府の重鎮であり、早稲田大学の創始者としても知られる人物。

ていしん

逋信総合博物館によると、日本に電話が開通したのは1890（明治23）年12月16日のこと。横浜と東京の間の一帯において電話サービスが開始された。

その際、各電話番号は申し込みの順番で決めていった。電話設置費用及び通話料が高額なこともあり、当初の加入者は東京で155名、横浜で42名と合わせても197の団体、企業、個人しかいなかった。

そのため、現在のようない市外局番や市内局番もない3ケタの電話番号で事足りたのだ。

個人で申し込み余裕があったのは、政府の重鎮たちや大会社の社長くらい。そのなかで、大隈重信の申し込み順がたまたま177番目で、その結果「177」という電話番号を取得したというわけだ。

理髪店の入り口にあるポールは……

理髪店にある白、赤、青の回転看板は日本では「サインポール」、海外では「バーバーポール」と言われる。このポールは、かつて理容師が外科医を兼ねていた頃のなごりである。

中世ヨーロッパでは、髪を切ることはからだを切ることと同じと考えられていたため、理容師が傷の手当てや歯の治療も行なっていた。

その頃、からだの悪い部分には悪い血が集まるという常識から、その部分の血を抜く「瀉血」という治療法があり、そのときに用いていた棒がサインポールなのだ。つまり、

**血を流すための容器だった。**

血が流れ落ちる棒のため最初から赤く塗られ、そこに包帯を巻きつけて干していた。当時、包帯は貴重品だったため、洗って再利用していた。これが今のグルグル模様の原型になる。

白、赤の2色に青が加わったのは、18世紀に理容師と外科医が分離したときである。区別のために、外科医は白と赤、理容師は青を加えた3色のポールを看板にすることになったのだ。

## 阪神タイガースの歴代監督に……

これは2003（平成15）年、18年ぶりにリーグ優勝した阪神タイガースの意外な「ジंकス」である。阪神ファンを自認する人も気づいている人は少ないだろう。

阪神は岡田彰布監督まで22人（代行含む）が指揮を執ったが、そのなかに、

**寅年生まれはひとりもない。**

虎チームでありながら、指揮官は誰ひとり虎でないというおもしろい結果である。

- 1 森茂雄（1906年生・午）
- 12 村山実（1936年生・子）
- 2 石本秀一（1896年生・申）
- 13 吉田義男（1933年生・酉）
- 3 松木謙治郎（1909年生・酉）
- 14 ブレイザー（1932年生・申）
- 4 若林忠志（1908年生・申）
- 15 中西太（1933年生・酉）

JR各社の正式名称は「〇〇旅客鉄道株式会社」だが……

日本全国を網羅していた日本国有鉄道、略して国鉄が、JR各社に分割民営化されたのは1987（昭和62）年。それ以降、JR東日本、西日本、北海道、東海、四国、九州の地方ごとの6つの会社に、日本貨物を加えた全7社のグループ企業が経営している。

この6つの鉄道会社の正式名称は、「東日本旅客鉄道株式会社」というように、頭に地方名を冠したものが、注目したいのは社名の「鉄」の字。

「鉄」の字の右側は「失」ではなく、「矢」が使われている。

JR東日本の広報部によると、あえて間違ってもこの漢字を使うのには、意味があるという。「鉄」という字を分解すると「金を失う」となり、縁起が悪い。そこで、正しい漢字ではないものの、「矢」を採用したという。

普段の業務では「失」を使用しているが、パンフレットや公式の場では「矢」を使っている。ただし、JR四国だけは例外で公式の場でも「失」が使われている。

なぜ、JR四国だけが普通の「鉄」の字のままにしたのか。JR四国経営企画部に尋ねてみたが、「何か理由があったことだったと思うが、なぜなのか現在ではわからない」とのこと。

ゆえん

あまり小さなことは気にしないという、おおらかさの所以だろうか。

闘牛で赤い布を振ると……

「オーレッ！」の掛け声とともに、闘牛士がひるがえす赤い布「ムレタ」。ウシが猛り狂うと、観衆の熱気も最高潮に達する。

血の色である赤色が、ウシを興奮させているとほとんどの人が思っているが、じつは青色でもウシの興奮は変わらない。

なぜなら、ウシには、赤い布も青い布も同じものにしか見えないからだ。色をはっきり見分ける能力のある動物は人間とサルくらいである。

ウシの目に映るのはモノクロ映画のような世界。イヌやネコも同様に色を識別できない。

ウシなどの草食動物は肉食動物から身を守る本能があるから、見慣れないものを異常なまでに警戒する。闘牛士のひらひらの衣裳や赤い布、はじめての大観衆となれば、ウシが興奮するのも当然だ。

また闘牛のウシは、いんのう陰囊を絞り上げられている。これで暴れないはずがない。

観衆は色がわかるので、血の色のほうが気分は盛り上がるというもの。騒げば騒ぐほどウシもその気になってくるが、むしろ、

人間のほうが興奮している。

儒学の祖として有名な孔子には……

孔子は、日本の歴史の授業でも必ず習うことになる人物である。紀元前6世紀、春秋時代の中  
国に生まれた思想家であった孔子が説いた教えは、儒学として確立された。

この教えは中国国内にとどまらず、江戸時代の日本の為政者たちにも影響を与えるなど、東ア  
ジアを中心に浸透していった。

数多くの弟子を育てたことでも有名な孔子だが、しっかりと子孫も残していた。彼が没して2  
500年という悠ゆうきゆう 久の時が流れたが、今も孔子の末裔まつえいたちは生きている。それも半端な数では  
ない。

**全世界で300万人以上の子孫がいる。**

現在生きている孔子の子孫は、82代目にあたる。

孔子家系図研究センターは、長年にわたって家系図を系統だてる研究を続けてきた。同研究セ  
ンターによると、孔子の子孫は国外にも多いという。韓国に約10万人いるほか、アメリカ、シン  
ガポールなど、世界各地に約50万人の末裔が暮らしている。

同研究センターは、現在も孔姓の著名人たちの協力を得て、家系図を書き足す作業に取り組ん  
でいる。

運動会の定番競技である「玉入れ」は……

玉入れが運動会で採用されるようになったのは、明治時代。それ以来、運動会と言えば玉入れが思い浮かぶぐらい定番となったが、言い換えれば、運動会でしか見られない競技でもある。

この玉入れが、1995（平成7）年、全日本玉入れ協会が発足すると同時に、規則や用具の寸法を規定した競技として大変身！

試合方法は100個の玉を入れるタイムトライアルで行なわれる。用具の寸法においては、

**カゴの高さが4メートル12センチ、直径44センチと決められている。**

そもそもなぜ、こんな半端な数字に決められたのか。

わっさむ

発端は、北海道の和寒町が、1990（平成2）年に「ふれあいまつり」のイベントにと考案したものだ。

カゴの高さは和寒町のこれまでの最低気温がマイナス41.2度だったことにちなんだものであり、カゴの直径が44センチなのは、これまた和寒町が北緯44度に位置しているから。

2005（平成17）年の玉入れ選手権大会には116ものチームが集まった。協会ではこの競技を「アジャタ（AJTA 協会の英語名の略称）」と名づけ、普及に期待しているそうだ。

## 鎌倉大仏の体重121トンは……

神奈川県鎌倉市の高德院の大仏様は、鎌倉を含め神奈川県下で唯一の国宝の仏像である。

その大きさは、パンフレットによれば高さ11.312メートルで、重量が121トンと、じつに堂々たる体格。

高さはともかく、体重がこれだけはっきりしているのはどこか怪しい……。しかしこの数字、

**実際にはかりに載せて量っている。**

文化庁美術学芸課によると、大仏を永久保存するための改修工事を行なう際、正確な重量を測定しようということになったのだという。

そこで1961（昭和36）年3月22日、大仏を数力所でジャッキアップし、いくつものはかりを下に入れて測定。2回測定が行なわれ、第1回測定が121.4トン、第2回測定が120.6トンだった。そこで平均をとって121トンと決定されたのだ。

そんな「重み」のある大仏様だったが、1369（応安2）年には強風で倒壊。風を避けるために避難していた群集の上に倒れたため、500人ももの死者が出たという。人間は仏の「重み」には耐えられないということか。

ホッチキスの発明者は……

ホッチキスの発明者とされるのは、アメリカのコネティカット州出身のベンジャミン・B・ホッチキス氏。彼は19世紀の兵器発明家としても知られている。

15世紀にレオナルド・ダ・ビンチが考案した多銃身砲がルーツの機関銃は、19世紀に急速に発達した。

手回しで銃身を回転させるもの、発射反動を利用したものなどが次々に発明された。そんななかでベンジャミンは、

**機関銃も発明していた。**

彼の発明した機関銃は、銃身内のガス圧を利用。弾薬の供給、発射ともに自動化した画期的なものだった。

ベンジャミンの機関銃は高い評価を受け、世界中に広がった。旧日本軍も日露戦争で使用していたという。

ガス圧式機関銃の商品化はベンジャミンの死後だが、ホッチキスの針送り装置は、この機関銃の弾送り機構をヒントに発明されたと言われている。

ワイシャツの裾が波型になっているのは……

ワイシャツを広げてみると一目でわかるが、裾の前後が長くなっていて、左右両横が短い形になっている。これは、

**男性の股間にある大事なイチモツを包むため。**

かつて、ヨーロッパではアンダーウェアとしてパンツをはく習慣がなく、シャツの裾の前後で包むように着こなしていたのだ。

ワイシャツの裾の後ろ側をシャツテールと呼ぶが、かつてはテールの先にボタンホールがついていた。そして、前身ごろの先についたボタンと股の下で合わせて留めるようにしていた。

事実、京都にある京都服飾文化研究財団に保管されている当時のシャツは、股間にあたったであろう部分が茶色く変色している。

もともと、シャツは下着としての機能も果たしていた。2、3世紀前のヨーロッパでは、スーツは高価な洋服で、貧しい家では1着のスーツを次世代へ引き継ぐほどだった。

当時はクリーニング店が存在していなかったので、汚さないように着なければならぬ。そこで、からだの汚れが直接スーツにつかないよう、シャツを着る習慣が生まれたのである。

## 電車の中吊り広告の広告料は……

同じ内容、大きさの広告でも、電車で目にする中吊り広告の料金は、それぞれ異なる。走る路線によっても広告料金が異なるのだが、地上を走る電車と地下鉄の中吊り広告を単純比較した場合、

**地上を走る電車よりも地下鉄のほうが高い。**

通路一杯に広がるサイズをダブル、その半分をシングルサイズの中吊り広告と呼んでいる。

ある広告代理店によると、関東圏を走る電車のシングルサイズで1日の料金を比較すると、地上を走るJR線でもっとも安いのが、京浜東北線群の1枚あたり318円。

それに対して、東京メトロは東西線系が506円、都営地下鉄線は大江戸線で697円と割高だ。

平均料金を比較しても、JRが545円、東京メトロが699円、都営地下鉄が755円と地下鉄のほうが高い広告料金となっている。

両者の料金の差は、広告への注目度の違いによるもの。地上を走る電車に乗っていると、人はいきなり車窓の景色に目が行きがちになり、広告を無視してしまう傾向がある。

健康器具のルームランナーは……

ルームランナーはアメリカでは「トレッドミル」と呼ばれている。その意味は「踏み車」。英和辞典で調べてみると、「獄舎内で懲罰として用いていた」と書かれている。ひと言で言えば、

**拷問用器具だった。**

このマシンが誕生したのは19世紀の初頭。中空の大きなシリンダーの外側にステップがついていて、人が手すりにつかまって歩くしくみだった。

イギリスの監獄で使用されたのが最初で、1865年の監獄法によると、16歳以上の囚人は最初の3カ月、この「踏み車」をやらなければならないとある。

監獄法が廃止された20世紀以降は、この「踏み車」も廃止となった。

しかし、その後、健康器具として復活。ランニングをしたくても安全な道が少ない現代の道路事情ともマッチして、大いに人気を博しているというわけだ。

数ある健康器具のなかでも、心拍機能を向上させる健康器具としては一番の売れ行きだという。

## キューピーマヨネーズを発売当初……

マヨネーズを日本で広めたのは、現在のキューピーの創始者である中島董一郎氏である。缶詰製造販売店で働いていた中島氏は、1915（大正4）年に海外実業練習生としてヨーロッパに渡り、さらにその後アメリカへ渡った。彼はこの地でマヨネーズと出会い、日本で製造・発売することを思いついたのである。

ただ、当時の日本はまだ女学生が袴をはいている時代。中島氏は服装が変われば食生活も洋風化するはずと予測し、その時期を待ち続ける。

帰国から10年後の1925（大正14）年になってようやくマヨネーズの製造・販売へと踏み出す。

とは言え、当時の日本にはまだ生野菜を食べる習慣がなかった。そこで、中島は高級カニ缶とマヨネーズを小売店に持参して試食会を開催。

発売当時は魚料理などにかけて食べるソースとして売り出されたのである。

それと同時に、説明書も添付。これには、マヨネーズの素材や利用方法だけでなく、将来性についてまで事細かに記載されていた。今では考えられない。マヨネーズになじみのなかった日本人のなかには、

セーラー服の背中の襟が四角形なのは……

セーラー服という名前からも想像できるように、セーラー服は19世紀にイギリス海軍の水兵（セーラー）が着る軍服として誕生した。

彼らはしばしば洋上で帆船のマストにのぼり、帆を上げ下げする任務を担っていたが、このときマストの上では風が吹くと甲板からの上官の笛の音や命令が聞こえにくい。そこで

**背中の襟を立てることで、風を遮断し音を聞きやすくしていた。**

そのため、襟は四角くデザインされたのである。

さらには衛生面からの工夫でもあった。

当時、ヨーロッパの男性の間では「ピッグ・テール」と呼ばれるおさげ髪にするヘアスタイルが流行していた。背中に大きな襟があることで、制服が長い髪で汚れるのを防いだのである。

やがて、「ピッグ・テール」の流行は去ったが、この襟だけがそのまま残った。

その後、アルバート王子（後のエドワード7世）のセーラー服を着た肖像画が話題を呼び、子ども服として流行するようになる。

日本には明治時代に子ども服として入ってきた。これが、女子学生の制服として採用されるようになったのは、関東大震災後の大正時代の頃だった。

世界中で愛飲されているコーヒーだが、18世紀のスウェーデンでは……

全日本コーヒー協会によると、18世紀後半に、北欧のスウェーデンの国王グスタフ3世が、双子の囚人のひとりにコーヒーを、もうひとりに紅茶を毎日飲ませ続けていたという。

囚人にコーヒーとはなんとも不思議な話だが、

**刑罰としてコーヒーを飲ませていた。**

グスタフ3世がこのような刑罰を与えたのには理由がある。古くからコーヒーが愛されてきたと思いがちなヨーロッパ諸国だが、広まったのは17世紀になってから。

エチオピアに起源を持つコーヒーの樹木がアラブ諸国へ広まり、やがて中近東を経てヨーロッパへと伝播した。

今でこそ飲料として愛されているコーヒーだが、苦味成分のため最初は毒入り飲料ではないかと疑われていた。

ほんとうに毒性があるのかを確かめようと、グスタフ3世は囚人にコーヒーを飲ませる実験を思いついたというわけだ。

確かにコーヒーに含まれるカフェインには毒性があるが、一度に100杯くらい飲まないと死には至らない。囚人は数十年間もコーヒーを飲み続けたものの、健康そのものだった。

マネキンを燃えるゴミとして捨てる……

一般家庭にはまずないが、街に出れば目にするもの。そのひとつにマネキンがある。ショーウインドウのなかでマネキンが着ている服はなぜかとても素敵に見えるものだ。

そんなマネキン本体をくわしく調べてみると、素材にFRP（繊維強化プラスチック）というガラス繊維が使われている。

これを一般ゴミといっしょに焼却すると、焼却温度が低いために有毒ガスが発生してしまう。だから、マネキンは産業廃棄物として埋立地に廃棄されなければならない。つまり、燃えるゴミとして捨てる、

### 廃棄物処理法違反になる。

ならば焼却しやすいマネキンをつくればいいということで、世界最大のマネキン販売会社である「吉忠」では、環境に配慮した和紙製のエコマネキンを開発。  
よしちゆう

FRPの代わりに竹を使うことで焼却可能となり、焼却灰も土に還りやすいという環境にやさしいマネキンだ。

しかし、肌の光沢や目の色といった表現のリアルさではFRP製にかなわず、取って代わられるだけのパンチには乏しいという。

霧で有名な摩周湖は……

霧で有名な摩<sup>ましゆうこ</sup>周湖。摩周湖と名乗っているぐらいだから当然湖のはず……。そう思っていたら、

**法律上は単なる水たまりである。**

なぜ水たまりなのか。

この問題は、かつて摩周湖が皇室の御料地であり、宮内大臣名義の土地とされていたことに端を発している。戦後になって国有財産に移管されたが、登記上の所有者は宮内大臣のまま放置されていたのだ。

2001（平成13）年、土地の開発業者による摩周湖の開発に、湖を含む旧御料地（100筆・1万8800ヘクタール）の一部について、所有者問題が発生。

宮内大臣から国の機関へ名義変更しようとしたが、摩周湖を水源とする河川がないために国土交通省名義で登記できなかった。では農林水産省名義に思っても、湖面に樹木がないために、これまた登記できないという状況に陥ったのだ。

北海道財務局によれば、2003（平成15）年4月、湖及び湖のなかのカムイシュ島は農水省林野庁の所有となったが、湖には樹木がないことから、登記できないまま。

南極では……

南極観測隊の隊員は、マイナス20〜30度と日本よりはるかに寒いところで過ごしているのに、

風邪をひかない。

これは人間が風邪をひくメカニズムに関係がある。

かんぼう

人間が風邪をひくのは寒さが原因ではない。医学用語で言う「感冒」は、ウイルスによって起こる感染症である。ウイルスに感染しても、からだの抵抗力が強ければ発症しない。

よく寒い冬に風邪をひきやすいと言われるのは、ウイルスが繁殖しやすいうえに乾燥した空気で気道粘膜を傷つけられ、抵抗力が落ちるからだ。

かつては寒さだけで風邪をひくと考えられ、ウイルスによって起こるものと区別して「寒冒」と呼んでいた。今では寒さだけで風邪をひくことはないとわかっており、この区別はなくなっている。

南極観測基地には風邪のウイルスをばらまく人がいないし、ウイルスは日本の冬くらいの温度がもっとも繁殖しやすく、南極の温度ではウイルスは生きていけない。さらに言えば、空気がきれいなことも南極に風邪がない理由だという。

どこの家庭にもあるティッシュは……

あるときは鼻をかんだり、またあるときは雑巾代わりにと、使い捨てのハンカチとして日常生活の必需品と言ってもよいティッシュ。

**もともとはアメリカで軍用として開発されたもの。**

アメリカは戦争中に戦場や野戦病院などで止血をはじめとする手当てに脱脂綿を使っていたが、極端な量不足に悩まされることになった。その問題を解消すべく、キンバリー・クラーク社が脱脂綿の代用品として開発したのが現在のティッシュのルーツだ。

当時、この製品は「セルコットン」と命名されて大量に生産されたが、終戦とともに需要がなくなってしまった。この製品の新たな利用価値を模索していたキンバリー・クラーク社は、1924年にコールド・クリームうたの拭き取り用の使い捨てハンカチと謳い、クリネックス・ブランドとして一般市場に売り出した。

これが消費者から圧倒的な支持を集め、たちまち人気商品となった。日本にも輸入されるようになり、やがて日米合弁会社の設立とともに1964（昭和39）年には国内生産が開始された。用途の広い使い捨ての紙として評判はすぐに広まり、家庭に常備されるようになったのだ。

### Ⅲ 今すぐこの目で確かめたいくなる衝撃の事実

山の頂上には郵便ポストがあるが……

どこにでもある見慣れた赤い郵便ポストだが、和歌山県すさみ町の周参見湾にある郵便ポストは、その場所が問題だ。なんと、

**海のなかにも郵便ポストがある。**

1999（平成11）年開催の「南紀熊野体験博」のイベントとして設置され、ポストが海面下10メートルに固定されている。2002（平成14）年には「世界一深いところにあるポスト」としてギネスにも認定された。

すさみ町郵便局によると、投函量は毎年平均3000通にものぼり、2005（平成17）年12月には累計2万通を超えたというから、なかなかの人気ぶりだ。

ただ、郵便法により、海中にある時点では郵便物とみなされず、回収は地元のダイビング・サービス会社が行ない、地上に上げたあとで郵便局が扱っている。

ハガキは毎日回収され、配達は迅速。海中からの手紙なんて、なかなかロマンチックである。

【ひとコラム】

タコ踊りをしているタコは……

海中で8本の足をくねくねと踊るように動かしているタコ。このしぐさはタコが踊っているように見えることから、よく「タコ踊り」と呼ばれる。だが、

**決して踊っているわけではない。**

これは吸盤の古い皮膚をこすり落とすしぐさなのだ。

しながら水族館のタコの飼育員によると、タコの吸盤は、ただモノにくっつくためだけにあるのではないという。ここには触覚や味覚の神経が集まっていて、タコにとってはとても大事な器官なのだ。

その吸盤を使ってあらゆるモノにくっつくことができるのだが、岩やサンゴなどのゴツゴツしたところにくっついていると、吸盤表面の皮膚は磨耗し傷んでしまう。

このままでは吸着力が落ちてしまうので、吸盤の表面がツねにきれいに保たれるよう、短期間に生え変わるようになっていく。

その際、古い皮膚がどうしても表面に残ってしまう。タコは8本の足をこすり合わせ、これを削ぎ落とそうとする。この動きがくねくねとしたものになり、まるで踊っているように見えるわけだ。

二宮金次郎の銅像は、たいてい柴を背負って読書をしているが……

二宮金次郎（尊徳）は江戸時代末期の農政家で、数多くの藩の財政を再興させた人物である。勤勉な努力家というイメージは、柴を背負いながら読書をする金次郎の銅像によって定着した。

このポーズの原型は、1891（明治24）年に出版された幸田露伴の小説『二宮尊徳翁』の挿絵。この絵を手本として金次郎の銅像が創作され、1924（大正13）年に愛知県豊橋市の前芝小学校にはじめて設置された。これ以降、全国各地の小学校に次々と金次郎像が建つことになった。

全国にある金次郎像のほとんどがこのポーズだが、なかには、

**柴をおろして座って読書をしている銅像もある。**

この珍しい銅像は、金次郎生誕の地である神奈川県小田原市の豊川小学校と桜井小学校にある。

ともに銅像が建てられたのは平成の世になってから。桜井小学校の話によると、金次郎の読んでいた書物は難しい内容だったと思われるので、座って、じっくり考えて読書をしたと考えるほうが自然。そこで、彫刻者と学校側が話し合い、座った金次郎像にしたのだという。

ミミズは……

ミミズの移動は、からだを伸ばしたり縮めたり、またはへビのようにからだをくねらせる「ぜん動」運動で行なう。

さらに、からだに生えている短い剛毛が、滑り止めの役割をして運動を助けている。紙の上でミミズを歩かせるとカサカサと小さな音がするが、これは剛毛が紙と擦れる音。ミミズにとってはなくてはならない剛毛だが、動きを制限してしまう面もある。この剛毛のためにミミズは、

**バックできない。**

たとえば、靴などに使うマジックテープを思い浮かべてほしい。なでる方向によって手のザラザラ感が違う。これは繊維の生え方に向きがあるからだ。

ミミズの剛毛もこのマジックテープと同じ原理である。バックのときは毛の流れに逆らうので、後ろに下がろうとしても下がれないのだ。

そのためミミズは、障害にぶつかると、後ろに下がらず遠回りしてでも前に進もうとする。

いつもジメジメしたところにいて暗いイメージのミミズだが、じつは「前向き」なヤツだった。

新幹線の駅が6つもある静岡県には……

その場所は、静岡県の東端、伊豆半島のつけ根にあたる田方郡函南町。東海道線函南駅から西南に1キロほど行くと、そこに、  
たがた かななみ

「新幹線」という名の地域がある。

静岡県函南町役場によれば、2006（平成18）年1月現在の人口は714人、世帯数は27戸。なかなか垢抜けた新興住宅街である。

かみざわ

現在の正式な住所は「上沢番地」だが、この地は東海道新幹線が開業する以前から「新幹線区」と呼ばれていて、新幹線区公民館や幹線上、幹線下といったバス停が、今も存在している。

新幹線区と呼ばれるようになったのは、工事関係者の官舎があったことがきっかけ。と言っても現在走っている新幹線の開通工事ではない。

1939（昭和14）年に鉄道省が高速鉄道計画を立て、このときまず着工されたのが函南町の  
しんたん

新丹那トンネルだった。

太平洋戦争の激化で工事は頓挫したが、建設に従事していた人たちがそのまま官舎のあったこの地区に住み着いた。そして、いつしか「新幹線区」と呼ばれるようになったのである。

## ヒラメやカレイの目は……

ともに砂地の海底で暮らす平たい魚のヒラメとカレイ。横倒し状態のため、両方の目がからだの片側に寄っている。なんとも奇妙な顔つきである。

しかし、じつはどちらも生まれたばかりの遊泳期には、ほかの魚と同じように目はからだの両側に1つずつついている。

それが海底生活に移る前、ななめになって泳ぐ頃になると、片方の目が背中を越えて片側に寄っていく。つまり目だけが、

### 生まれてから移動する。

よく「左ヒラメの右カレイ」というように、からだは右に倒れて目が左に寄ったのがヒラメ、その逆がカレイと、目の位置で見分けることができる。

ただし、この区別はおもに日本産だけで、外国産にはあてはまらない。

ヒラメとカレイの見分け方は、目の位置のほかに、いわゆる「大口ヒラメの小口カレイ」がある。口の大きいほうがヒラメで、歯もヒラメのほうが発達している。

また、からだの色も違う。目のない裏面はどちらも白っぽいが、表面はヒラメが黒褐色や黄色の斑点があり、カレイは褐色や黒味を帯びた色をしている。

## 名古屋城のシャチホコは……

現在名古屋城の天守閣の上にいる、金のシャチホコはなんと2代目である。2005年の愛知万博に展示され、話題を呼んだのもこの2代目だ。

江戸初期に完成した名古屋城の天守閣には、初代のシャチホコが輝いていた。このシャチホコには水を呼ぶという伝説があり、火災を防ぐ願掛けとして取りつけられていた。がなか

しかし残念なことに、1945（昭和20）年5月、第二次世界大戦時の空襲で天守閣とともに焼失してしまった。さすがのシャチホコも、空襲までは防げなかったらしい。

当時名古屋城では、有事に備えて可能なものは取り外し、神社などに移していた。シャチホコも南側の雌を途中までおろしていた。

しかしちょうどそのときだった。名古屋を空襲が見舞う。街は瞬く間に火の海となったが、シャチホコはかろうじて金塊の燃えかすとして残ったのである。

このシャチホコの燃えかすは、一度米軍に接收されたものの、やがて名古屋市に返還。名古屋市はこの金塊の使い道を討議し、結局、

茶釜になった。

大阪名物「くいだおれ人形」には……

紅白縞模様しまの派手な洋服に、とんがり帽子。顔は、黒ぶちメガネの実に平凡な顔。このアンバランスが人気の秘密なのか、彼は料理店「くいだおれ」の看板おじさんとして連日観光客からフラッシュ攻めにあっている。

彼の本名は「くいだおれ太郎」。生年月日は「くいだおれ」の開店日でもある1949（昭和24）年6月8日。仕事開始は翌年1月。そんな彼にもじつは、

**家族がいる。**

家族は「親父」と弟の「くいだおれ次郎」。「親父」は喜劇俳優のエノケンにそっくりで、最初はハチマキにハッピー姿で店頭に登場していた。生ビールの入ったジョッキを盆に載せて回転していたが、回る度にビールがこぼれるという粗相そそうをしてクビ。そこで「太郎」の登場とあいなつた。

「次郎」は「太郎」とそっくりで、兄貴が「外出」するときにピンチヒッターを務める。

どんな「外出」かと言うと、たとえば野球観戦。「太郎」はかなりの野球好きで、2003（平成15）年の日本シリーズの前には、タイガースのハッピーを着て、福岡ドームへダイエー（現

サケの身は……

鮮やかな赤い色がおもしろいようなサケだが、分類上は白身の魚である。白いサケなんて見たことがないと思うかもしれないが、確かにその通り。市場に出回るサケは赤い身をしている。

サケの肉が赤い理由はエサにある。海に出てエサとしてエビやオキアミを食べているうちに、その色素が筋肉に蓄積し、鮮やかな赤に変わっていくのだ。生まれつき赤い身をしているわけではなく、

もともとは白い。

事実、海を回遊しない養殖ものは白身のまま。日本人はとくに赤い食品を好むせいか、白いサケでは売れない。そのため人工合成した色素を飼料に混ぜ、無理やり赤身にしているサケもあるようだ。

卵であるイクラが赤いのもこの色素が卵に移るため。反対に11月の産卵期、川のぼりをするサケは、色素がとれ白くなっていく。

産卵の1〜2カ月前から何も食べなくなり、脂肪やタンパク質をエネルギーに変えてやせてくる。肉質はパサパサになり、表面のウロコも黒くなる。

ラジオ体操には……

「新しい朝がきた〜」ではじまるラジオ体操は、1951（昭和26）年に逓信省簡易保険局ていしん（現在の日本郵政公社）が制定。第2体操はその翌年に完成している。

でも、ラジオ体操そのものの歴史はさらに古く、現在のもっとも知られているラジオ体操は改良が重ねられた3代目。しかも、第2体操で終わりではなく、

### 第3体操があった。

初代の誕生は1928（昭和3）年で、当時の名は「国民保健体操」と言われていた。1932（昭和7）年に第2が、そして1939（昭和14）年につけ加えられたのが第3体操だ。

当時の体操のなかには、現在では考えられないものも多く、グリコのおじさんがしているバンザイのような格好があったり、単純に側屈するだけなのに、その前に大げさにポーズを取ったりと、なんとも奇妙なものが多い。

しかしそんな「第3」は普及することはなかった。初代のラジオ体操（第1〜3）は戦後中止。2代目（第1〜3）も1947（昭和22）年に中止された。戦後の食糧不足の影響もあり、国民はラジオ体操どころではなかったからだ。

金魚のオスは恋をする……

人間の多感な青春期の悩みのひとつにニキビがある。顔に小さなニキビができただけで、ひどく気になるのは男女共通だ。このニキビ、じつは人間だけではない。恋をした金魚にも、

**ニキビができる。**

とくに発情した金魚のオスに見られるのだ。

もともと金魚はオスとメスの区別がつきにくい。金魚の飼育書などでは、生殖孔の形状や腹部の柔らかさで見分ける方法が紹介されている。だが、これだけで区別するのは難しい。

もっとも見分けやすいのが繁殖期。この時期になると、発情したオスの金魚には、ニキビに似た粒々ができる。

基本的には前ビレの先頭部にできるが、発情が強いオスともなると腹ビレや尻ビレ、エラブタにまであらわれる。この粒々は「追星」おいぼしと言われている。

追星が数多くあらわれるオスの金魚ほど、メスを追いかけて回し繁殖行為に臨もうと張り切っている証。そして、不思議なことに繁殖期が過ぎると、追星はほとんど消えてなくなってしまう。

この追星はまれにメスにもあらわれる。しかし、オスほどはつきりと出ず、うっすらあらわれるだけなので、素人でもオスとメスの見分けがつくという。まさに追星は、金魚の青春の象徴と

カタツムリには……

「で〜んでん む〜しむし……」の歌でおなじみのカタツムリ。イメージとしてすぐに浮かぶのは、あの渦巻き状の殻とによきとつき出た触角だろうか。

しかし、カタツムリの特徴をあらわす場所はほかにもある。それは口のなか。

カタツムリやナメクジの口は、頭部と触角の間に位置する。その口のなかには、「しぜつ歯舌」という器官がある。歯舌には、おろし金やヤスリのように小さな歯がたくさん並んでいて、これで食べ物しぜつを削り取って食べるのだ。

ちなみに、カタツムリの好物は野菜の若芽やキノコなど。

カタツムリの歯舌の場合、真ん中の歯を中心にして、左右対称に縦60〜100列もの歯が並んでいる。同様に横方向にも100〜150行以上も揃っている。

仮に80列×150行として計算すれば、

**1万2000本も歯がある。**

欠けたり脱落したりする歯も多いが、サメの歯と同じように再生して、古い歯の列の後に加わるというから驚くべきしくみである。

東映映画のオープニングに流れる激しい白波は……

大きな岩に荒波がドッパンと打ち当たるおなじみの東映映画のオープニングのクレジット・タイトル。あのシーンは、

**千葉県犬吠埼の波である。**

ロケ地は荒波が押し寄せる「犬岩」と呼ばれる地点だ。

「荒磯に波」と呼ばれているあのオープニングがはじめて登場したのは、1957（昭和32）年の『旗本退屈男 謎の蛇姫屋敷』。それ以前の初代のクレジット・タイトルには「荒磯に波」はまだ登場していなかった。

東映株式会社の映像版權管理部によれば、現在の波は5代目にあたるようで、2001（平成13）年4月の『バトル・ロワイアル 特別篇』から登場。

上空から竜巻を見下ろし、その中心に今までの「荒磯に波」があらわれるというスタイルにリニューアルされた。

今や東映映画には欠かせないこの「荒磯に波」の撮影は、波が適当に荒れた台風一過直後の晴天日を選んで行なっている。

カメレオンは……

カメレオンとカメの両者を競走させてみると、カメレオンが負ける場合が多いらしい。それぐらいカメレオンは、

**カメよりも歩くのが遅い。**

「ウサギとカメレオン」でもイソップ物語はじゅうぶん成立したかもしれない。

カメレオンはトカゲ類のうちで、樹の上での生活にもっともよく適応している。

枝の太さが3ミリもあれば、鍋つかみのような手足でがっちりつかんでのぼっていき、風速30メートルの風でもびくともしない。

離れたところのエサも食べられるように舌は体長の1.5倍もの長さがある。この舌は、長さだけでなくパワーもすごい。なんと舌で体重とほぼ同じ重さを支えられるのだ。

また左右別々に動くレーダーのような目は、7メートル先の昆虫を見つけることができるという。

しかしこんなカメレオンも、いったん樹を降りればほとんど動かなくなる。

正確には動いているが、観察しようとすれば根比べになってしまう。

シマウマの地肌は……

縞模様が鮮やかなシマウマだが、ひとたび毛を剃ってみるとどうか？　じつは、

シマシマではなく、ただのグレー。

地肌に縞はない。全体が黒っぽいグレーをしている。うっすらと模様もあるが、これは表面の毛の断面の色だ。

なぜシマウマの肌が縞ではないかという点、哺乳類の表皮や毛の色を決めるメラニン色素が、皮膚ではなく毛をつくる毛乳頭にあるから。

あのパンダでさえ地肌は暗いグレーで、生まれたばかりの頃は全身ピンク色だ。キリン、チーター、ヒョウ、トラなども地肌に模様はなく、肌色をしている。

パンダもクマも毛を剃れば見分けがつきそうにないし、毛を剃ったチーター、ヒョウ、トラを見分けるには、いっそ走らせてみるしかない……？

一方、ヒトには例外的に肌にもメラニン色素がある。しかし、髪は黒で肌は黄色、髪は金色で肌は白などというように、表皮と毛の色は一致していない。

なおシマウマの縞模様は、群れで行動しているときには外敵へのカモフラージュになるが、1匹でいるときはかえって目立ってしまう。このことがシマウマの頭数減少の要因のひとつであ

1000の手を持つ千手観音は……

千手観音の1000ある てのひら 掌には、なんとひとつずつ目がついている。だから、

**目も1000個ある。**

事実、正式には「千手 せんじゆせんげんかんじざいぼさつ 千眼観自在菩薩」と呼ばれている。

手が1000本あり、それぞれに目がついているのは、たくさんの手と目によって、余すところなく衆 しゆじよう 生を救うため。

1000本の手ですべての人々の苦悩を取り去り、1000の目ですべてを見て、人々を教え導くためである。

ただ、千手観音とは言え、実際の千手観音像の腕は、左右21本ずつで合計42本というものが多い。左右500本もの手を彫刻するのは、たいへんだからというのが本音だろうか？

では、なぜ42本かと言えば、ここにはきちんとした理由がある。

左右21本ずつのうち、胸の前で合掌している「合 がつしようしゆ 掌手」と、腰のあたりで鉢を持ってほ ほう 鉢手」を両腕で1本とすると、合計40本。その各1手が二十五有界（すべての世界）の

JR山手線浜松町駅のホームにある小便小僧は……

通勤通学で利用している人の間では有名だが、JR山手線浜松町駅のホーム、田町駅寄りの端に小便小僧の像が立っている。この小便小僧、

**1カ月ごとに衣裳替えをしている。**

着せ替えを行なっているのは、東京都港区の手芸ボランティアグループ「あじさい」の方々。手芸好きの人たちが集まって、小便小僧に工夫を凝らした衣裳を毎月用意している。

衣裳は季節の行事や、時々話題、イベントなどを考慮して決定されている。

サッカーのW杯の際は日本代表チームのユニフォームカラー、入学シーズンには学生服、クリスマスシーズンにはサンタクロースの衣裳といった具合である。

小便小僧が浜松町駅ホームに登場したのは、1952（昭和27）年のこと。最初は白い陶磁器製の像が寄贈されたが、1968（昭和43）年に現在のブロンズ像に変わった。

小便小僧がはじめて洋服を着たのは昭和30年頃のこと。浜松町駅を利用していた乗客が用意したという。その後中断を経て、昭和61年頃からは「あじさい」グループが、着せ替えるようになった。

フラミンゴの母乳は……

フラミンゴは言うまでもなく鳥類である。人間などの哺乳類は乳腺を持っているからミルクを出すことができるが、鳥類に乳腺はない。ということは、フラミンゴは母乳が出ないはずである。

しかしフラミンゴは「フラミンゴミルク」と呼ばれるミルクを出し、それで雛ひなを育てるのだ。

ミルクをつくるのは乳腺ではなく、喉にある囊のうという袋で、そのなかの内壁にある細胞が剥離して分泌される。だから、ミルクと呼んではいるが、実際はミルク状の液体と考えられる。

東京都の多摩動物公園によれば、確かにフラミンゴミルクは、

**血のように真っ赤な色をしている。**

また水のようにサラサラだという。メスのフラミンゴは、雛が孵化ふかしてから2、3カ月間ミルクを出す。

雛も最初の2週間はミルクだけで育ち、その後エサを食べるようになってからも数カ月は母乳を飲むという。

カエルは卵からオタマジャクシになるはずだが……

親ガエルが産んだ卵からオタマジャクシに成長し、やがて子ガエルへと姿を変えていく……。

日本では当たり前のように思われているカエルの成長過程だが、カエルのなかには、オタマジャクシの期間を持たずに直接<sup>ふか</sup>孵化する種類もいる。つまり、

**卵からカエルの姿で生まれるカエルがいる。**

アメリカの南、大西洋上の島プエルトリコ原産のカエル、コキーコヤスガエルというカエルがそれ。体長は1〜2センチと小さなカエルで、水中ではなく湿った地上に卵を産み、直接卵からカエルの姿として誕生する。

この繁殖方法は直接発生と言われている。

稀少種のカエルと思うかもしれないが、じつはカエルの種類のうち、約800種類のカエルがこの直接発生という繁殖方法で生まれていて、全世界のカエルのうち、約2割を占めている。

世界的には珍しくない発生方法だが、日本のカエルのなかにはいない。

さらに、ヒキガエルの仲間であるアフリカ原産のリベリアコモチヒキガエルとニシコモチヒキガエルは、卵さえも産まず、人間と同じように子ガエルを産み落とす。

寺院に鎮座している如来像の手足には……

日本国内には、奈良の大仏から野仏まで多種多様な仏像がある。それらすべてを仏像と総称しているが、大きく分けると仏像は6つに分けることができる。

なかでも如来像はによらい最高峰に位置する仏像だ。「如来」とは、真理を会得した人のことを指し、具体的には悟りを得たお釈迦様の姿をあらわした像が如来像だ。

この如来像として描かれるお釈迦様は実在した人物であり、生まれたとき、お釈迦様はすでに普通の人間とは異なる肉体的特徴を備えていたとされる。

その特徴には、32種類の大きな特徴と80種類の細かな特徴がある。これを総称して「三十二相しゆそくまんもうそう八十種好」と言われる。

これらの特徴には、それぞれ名前と意味がある。そのなかのひとつに「手足縵網相」と呼ばれるものがある。なんと手足の指の間に

水かきがついている。

なぜ仏像に水かきがついているのか。

クモにカフェインを与える……

応用薬学への利用も視野において、クモに各種の薬物を与え、その反応を調べた科学者がいる。ドイツの薬理学者ピーター・ウイットがその人物である。

ウイットは、興奮作用のあるカフェイン、幻覚作用のあるメスカリン、痙攣けいれんを起こさせるストリキニーネなどを、それぞれクモに与えてどのような巣の張り方をするのか、その違いを観察している。

すると、薬物を摂取していなければ、糸の網目が非常に細かく規則的な模様の巣をつくるのに対し、薬物を摂取したクモは、通常の巣をつくれなかった。なかでも、カフェインを摂取したクモは、

**でたらめな糸の張り方をした巣をつくる。**

網の目の間隔が粗くなり、糸の本数も減って、通常のクモの巣とはまったく異なる。おもしろいのは、幻覚剤よりもカフェインのほうがこの傾向が顕著にあらわれたことだ。これは、クモの中枢神経が麻痺まひして酔っ払ったような状態になるためだと考えられている。

あまり見る機会のない十一面観音像の後ろの顔は……

仏教の尊像のひとつに、十一面観音という像がある。有名なところでは、長谷寺や奈良国立博物館に所蔵されている。この観音像は名前の通り、中央の大きな顔を含めて11面の顔を持つ。顔を四方八方へ向けることで、救いを求める人々をつねに見守るという意味がある。

だが、正面から鑑賞すると顔は10面しか確認できない。この10面のうち、大きな顔1面と小さな顔3面が穏やかな菩薩顔である。そして、瞋怒面しんぬと呼ばれる怒った顔が3面、そして牙きばを持つ顔が3面という構成になっている。

それでは、残るもうひとつの顔はどこにあり、どんな顔をしているのか。その顔は正面の顔の真後ろに位置し、ほかのどの顔とも異なる。なんと、

大笑いしている。

口を開けて笑っているこの顔は、暴悪大ぼうあくたいしやう笑と呼ばれ、もっとも邪悪なものを圧倒するパワーをあらわしている。

観音菩薩はさまざまな姿に変化してあらわれ、人々を救うと説かれている。そのため観音像として、十一面観音のほかに千手観音せんじゆや馬頭観音ばとうなど、いろいろな姿をした像がつくられてき

皇室の車のナンバープレートは……

御料車は、日頃我々が街中で見かけるナンバープレートとは違って、

「皇1」「皇2」となっている。

プレートの場所も一般車にあるようにバンパーの下ではなく、バンパーの上にある。

宮内庁総務課報道室によると、「現在、所管している車は全部で10台。『皇』の1、2、3、

5、6、9、10、11、12、14で、4と13は存在しない」という。7と8は、2000（平成12

）年に香淳皇后崩御にともない廃車となった。

御料車に乗れるのは、天皇皇后両陛下と国賓などである。皇太子ご一家や秋篠宮ご一家などがご使用になるのは、普通のナンバープレートがついた車である。

また、一般車とはまったく違う皇室の車だからといって、道交法の対象外というわけではない。よく一般車を通行止めにするのは、警備の都合のため。

しかし最近では、一般の人に迷惑をかけるのは好ましくないという皇室のご配慮で、交通規制はかなり緩和されている。

## IV

1 週間は話題に困らない意外な事実

仲のよい夫婦のことを「おしどり夫婦」と言うが……

オスとメスがつがいで水辺にたたずむ姿がほほえましい、カモの仲間であるオシドリ。仲のよい人間の夫婦を「おしどり夫婦」として形容することでもなじみ深い鳥である。しかし、

**実際のオシドリの夫婦仲はよくない。**

立教大学理学部動物生態学研究室の上田恵介教授によると、オシドリの世界は一夫多妻制というわけではなく、一夫一妻制ではあるものの、夫婦である期間が非常に短いという。

仲むつまじく見えるオシドリのつがいが、相手は毎年変わっている。

晩秋の季節になると、オシドリたちは水辺に集まってきて群れを形成し、カップルをつくる。

ところが、越冬するとつがいはすでに解消されている。そして、年が明けて1月から2月にかけて日が長くなってくると、再び新しい相手を求めてつがいをつくりはじめる。つまり、オシドリの夫婦関係は年を越えないのだ。

交尾のあとにメスが卵を産み、育てはじめてからのオスの行動も冷ややかなものだ。メスが一生懸命卵を温め、子育てしている間に、オスはどこかへ遊びに行ってしまう。とても「おしどり夫婦」とは言えない関係である。

神戸の「100万ドルの夜景」は……

日本の三大夜景と言えば、神戸（六甲山）と長崎（稲佐山）、函館（函館山）の3カ所。そのどれもがすばらしく、まさにキャッチフレーズの「100万ドルの夜景」がピッタリだ。

その「100万ドル」という言葉だが、元祖は神戸。1953（昭和28）年、当時の電力会社の副社長が、六甲山から見る夜景のすばらしさに感動。その感動が忘れられなかった彼は、山頂から見える大阪・尼崎・芦屋・神戸の電灯の数を計算したという。

すると、その数は496万7000個で、その電気代はひと月で4億2900万円。これを当時の1ドル＝360円で計算すると、100万ドル強になったのである。

偶然にもアメリカではすでに「100万ドル分の宝石をちりばめたような」という形容が、美しい夜景をさすものとして使われており、神戸の夜景のキャッチフレーズが「100万ドルの夜景」とされたのだ。

しかし現在の神戸の夜景は、

**1000万ドルの電気代がかかっている。**

使われる電気量が増えたことに加え、円高や物価上昇の影響もあって一気に値上がりしたためである。

1円玉の表側にデザインされている若木は……

現在、日本に流通している硬貨のうち、もっとも新しい硬貨である500円玉の表面には桐が描かれている。以下、100円玉が桜、50円玉が菊、10円玉が宇治平等院鳳凰堂と唐草、そして5円玉が稲穂に齒車と水。

いずれも日本の風土や文化に根ざした絵柄や、国の産業をイメージさせる図柄が採用されている。

では、最小貨幣単位である1円玉の表に描かれている木はなんの木なのか？ じつは

**この世に実在しない架空の木である。**

造幣局では、この木をただ「若木」と呼んでいる。

現在の1円玉が発行されたのは、1955（昭和30）年の4月1日。戦後初のデザイン公募として話題を呼んだ。

その結果、表の若木と、裏の「1」という数字にドーナツ型の線がかかるデザインが採用された。表と裏のデザインは同一人物によるものではなく、別々の応募作品のなかから選ばれている。

タツノオトシゴの赤ちゃんは……

聞いて驚くが、タツノオトシゴの赤ちゃんは、

**オスのお腹のなかから生まれる。**

いくじのう

もちろん卵を産むのはメスだが、その卵をオスのお腹にある育児嚢に産みつける。メスが育児嚢へ産む卵の数は、一度に数百個にも及ぶ。

そこでオスが精子を放出して受精させ、その卵を育児嚢のなかで抱えて過ごす。卵がお腹の袋ふかで孵化すれば、腹部を岩などにこすりつけ外へ押し出す。

つまり出産となる。

出産前のタツノオトシゴのお腹はぷっくりと膨らんで、まるで人間の妊婦のようになる。

このようにオスが妊婦として頑張っているのに、一方のメスは……。卵を産みつければどこかへ行ってしまって知らん顔。

ここは人間と違うようで、無責任な母親である。

ペンギンは仰向けの姿勢で倒れると……

2本の足でよちよち歩くペンギンは、そのかわいらしい姿からみんなの人気者。ずんぐりした体型をしていることもあり、雪上や氷上を歩く姿はどこか危なっかしい。一度仰向けに倒れてしまったら、立ち上がることができないのではないかと思ってしまう。

事実、ペンギンは仰向けの姿勢から

**そのままでは起き上がれない。**

水族館の飼育員によると、そもそも仰向けに倒れること自体、ほとんど見かけたことがないという。

たとえ転んだとしても、くちばしと翼の代わりである手（フリッパーと呼ばれる）を使ってからだを反転。腹ばいの姿勢からじょうずに立ち上がることができるらしい。

腹ばいの姿勢となったペンギンは、まずくちばしを地面に立てる。そして上半身をやや持ち上げた状態でフリッパーに力を入れる。同時に、足のツメを地面にひっかけて起き上がるのだ。

フリッパーは、ペンギンが全力疾走するときも威力を発揮する。足とともに地面を蹴って、まるで4本足の動物のように加速する。よちよち歩きのイメージが強いが、外敵から逃げるときには、大人の人間が小走りするくらいのスピードが出る。

童謡『ちようちよう』の2番は……

「ちようちよう　ちようちよう　菜の葉にとまれ　菜の葉に飽いたら　桜にとまれ……」  
この歌のタイトルは『ちようちよう』。だから内容も当然チヨウのことを歌っている。幼いと  
きに誰もが口にした懐かしい歌だ。

でも、この歌に2番があることを知っている人はどのくらいいるだろう。さらにその2番の歌  
詞は、

スズメの歌になっている。

実際に2番の歌詞は、こうなっている。

「起きよ　起きよ　ねぐらのすずめ　朝日の光の　さし来ぬさきに　ねぐらを出でて　こずえに  
とまり　遊べよ　すずめ　歌えよ　すずめ」

この2番は、1881（明治14）年11月に、日本で最初の音楽教科書『小学唱歌集・初編』を  
編集する際につけ加えられたもの。

のむらあきたり

いながきちかい

だから、1番の作詞が野村秋足なのに、2番の作詞者は稲垣千穎。ひとつの歌で作詞者が  
2人という珍しい歌でもある。

「一富士、二鷹、三茄子」は……

「一富士、二鷹、三茄子」はご存知、初夢に見ると縁起がよいとされるもの。

現代人には、なんだかおかしな順番だが、もともとは駿河の国（現在の静岡県）のことわざで、その由来には諸説ある。

そのひとつを紹介すると、徳川家康が駿府城にいた時代に決められたとする説がある。初ナスがあまりに高かったから、その高さを一に富士、二に愛鷹山、その次が初ナスとたとえたことからきているというものだ。

じつはあまり知られていないが、「三茄子」のあとに「四扇、五煙草、六座頭」と

「六」まである。

四以下は、「扇」は広がることから財産や子孫が繁栄することをあらわす。「煙草」は煙が上にいくから出世や栄達を、そして「座頭（昔の僧形の盲人）」は、盲目の僧の目が開く瞬間を見られるのは幸運とされたから。また、僧なので、毛がないことから「怪我がない」という意味もあるらしい。

五の煙草は、現代から見ればマイナスイメージであるが、家康の時代には駿河の名物だった。そこで、ほかの名産品も合わせてめでたい象徴としていたようだ。

桃の節句で飾る雛人形の男雛は……

せつく

桃の節句に飾られるかわいらしい雛人形。男雛と女雛の並べ方は、向かって左が男雛で、向かって右が女雛というのが一般的だ。

この並べ方は「標準飾り」と呼ばれている。結婚式でも、向かって左に新郎、右に新婦と並ぶのが普通だ。

でも、じつはこの並べ方にこだわる必要はまったくない。つまり、男雛は向かって左という決まりはなく、

左右どちらにおいてもよい。

雛人形で有名な「吉徳」資料室によると、そもそも日本古来の男女の並び方は、向かって右が男性で今とは逆だったという。

ごしんえい

これが逆転したのは、昭和天皇が即位したとき。天皇と皇后の御真影を撮影する際に、外国の王室を見習ってこれまでと逆の立ち位置にしたのだ。

新聞各社がその写真を掲載したために、雛人形も天皇・皇后と同じ位置にすべきだという意見が出てきた。そして、現在の東京都雛人形卸商協同組合が、この並び方を「標準飾り」と決定し

ににんがし、にさんがろく、にしが……と続く掛け算の「九九」のほか……

1627 (寛永4) 年に吉田光由みつよしが著した和算教科書『塵劫記』じんこうきには、10の倍数を1ケタの数字で割る、割り算の「八算」はっさんが掲載されている。ひと言で言ってしまうと、

**割り算の「九九」があった。**

ただし、1の段はなくて、2の段から9の段までだから八算である。

学力低下が問題になっている昨今の日本だが、江戸時代の子どもは今より高度な計算ができたようだ。

八算は、中国人の貿易商人を通して口伝で伝わった。割り算の「九九」を覚えていれば、それほど速く正確にできるということで、日本で使用されるようになったのだ。

「余り」の出る割り算は、掛け算より複雑だ。割り切れる場合には「割る数、割られる数、商」の順に並び、「 $10 \div 2 = 5$ 」は「二一天作の五」にいちてんさくご。割り切れない場合は「割る数、割られる

数、商、余り」の順で、「 $20 \div 3 = 6 \dots 2$ 」は「三二六 十の二」さんにくじゅうに。

## 夏目漱石の葬儀のとき……

夏目漱石と芥川龍之介。2人の文豪の出会い、夏目漱石晩年の1915（大正4）年末。翌年に発表した『鼻』を激賞されたことが若き芥川龍之介に作家への道を決意させた。はじめて漱石を紹介されたとき、芥川はからだガタガタ震えたらしい。

その後、何度も手紙をよこす芥川の純粹さに漱石も心を動かされ、芥川の身の上相談も親身になって聞いていた。芥川は後々まで、このときの漱石のやさしい微笑を忘れることがなかったという。

『文芸読本』（河出書房新社）によると、漱石の臨終は1916（大正5）年12月9日。持病のいかいよう

胃潰瘍が死因だった。彼の葬儀で、

**受付をしたのは芥川龍之介である。**

漱石には、古くからの弟子で物理学者として大成した寺田寅彦など、多くの門下生がいた。そのなかで葬儀の受付をしたのは、芥川のほか、倫理学を確立した和辻哲郎、流行作家として成功した久米正雄らだった。

漱石の葬儀のことを芥川は、翌年3月の『新思潮』に「葬儀記」として回想している。

早口言葉にある「東京特許許可局」は……

早口言葉の代表格とも言うべき「東京特許許可局」。「こんな複雑な名前にしたのは誰だ！電話に出る人だって名乗るときにたいへんじゃないか！」と文句のひとつも言いたいところだが、実際、そんな局は日本中どこを探しても、

実在していない。

この舌が絡まりそうな言葉は、まさに早口言葉を考え出した人の想像の産物だったわけだ。考えついた人を褒めるしかない。

日本に存在するのは「特許庁」であり、これは国の機関。だから、「東京」などと地名が頭につくことはない。

また特許は「審査」し、「認可」されるものであり、特許庁が「許可」するものではない。だから、特許庁のなかに「許可局」という部署が存在することはありえないのだ。

日本に「専売特許条例」が公布され、農商務省に専売特許所が設立されたのは、1885（明治18）年のこと。

その後名称は何度も変わっているが、「東京特許許可局」という名称になったことは一度もないそうである。

キュリー夫人は夫とともにノーベル賞を受賞したが……

キュリー夫人ことマリー・キュリーは、ノーベル賞を2度受賞している。

まず、夫ピエールとともにラジウム、ポロニウムを発見し、1903年にA・H・ベクレルとともに夫婦でノーベル物理学賞を受賞した。ポロニウムとは、マリーの故郷ポーランドにちなんだ名である。

そして、夫ピエールの死後、純粋の金属ラジウムの分離に成功。1911年に今度はノーベル化学賞を受賞した。

また、夫妻の長女イレーヌは、母の講義を聴いて放射能研究を志した。1926年には母の助手をしていたフレデリックと結婚。両親同様、娘夫婦も研究にまい進した。

やがて人工放射能を発見し、

**娘夫婦もノーベル賞を受賞している。**

ノーベル化学賞を1935年に受賞したのだ。

母マリーは、娘夫婦の活躍を大いに喜んでいたが、白血病のため受賞を知る前にスイスの病院で亡くなっている。このとき68歳。長い間扱ってきた放射能の被曝が原因だった。

サンタクロースが赤い衣裳を着ているのは……

サンタクロースは、4世紀に小アジア（現在のトルコ）の司教であった聖ニコラウスに由来する。子ども好きだった彼の名が、英語でなまって「サンタクロース」になったのだ。

赤と白の衣裳に白いひげを生やしたやさしそうなおじいさんが現在のイメージだが、100年前にそんなサンタクロースはいなかった。小さな妖精のイメージで、衣裳も青や緑、白などバラエティに富んでいたのだ。

今のサンタクロースがデザインされたのは1931年のこと。

**コココーラがきっかけだった。**

赤と白と言えばコココーラのイメージカラー。『サタデー・イブニング・ポスト』紙上に登場したコココーラの広告で、それまでの妖精のイメージから離れ、人間的で親しみやすいキャラクターが制作された。

以来、今や誰もが知っている赤い服を着たサンタクロースが定着したのである。

デザインしたのは、当時の有名な画家サンドブロム。モデルは彼の友人のセールスマン、ルー・プレンティスである。

ホテル街で有名な渋谷の「道玄坂」は……

渋谷のマスコットの存在とも言える「忠犬ハチ公像」のいる駅前広場からスクランブル交差点を渡ると、目の前に背の高いビルがそびえ立つ。それが若い女性に人気を誇る「109」だ。

このビルを右に見て、目黒区方面へと伸びる坂が「道玄坂」どうげんざか。日本でも有数のおしゃれスポットである。

しかし、この坂の特徴はそれだけにとどまらない。坂の裏にはびっしりとラブホテルが立ち並んでいるのだ。夜ともなれば、周辺は多くのカップルたちであふれかえる。

じつはこの道玄坂の名前は、

**追いはぎの名前に由来している。**

渋谷区の区名のもとにもなっている渋谷氏を頼って、和田義盛がこの土地に住みついていた。

その後、裔こうえいに大和田道玄という人物がいた。

1213（建暦3）年に和田一族が滅亡したとき、道玄は残党として洞窟に住み、坂の上にある松の木を物見に使っては追いはぎをしていたのである。

水死人を指す「土左衛門」の語源となった成瀬川土左衛門は……

水死した人間のことを俗に「土左衛門」と呼ぶ。これは江戸時代に生まれた言葉だが、土左衛門とは享保年間（1716〜36年）に実在した相撲の力士・成瀬川土左衛門を指している。

水死体の語源となったくらいだから、成瀬川土左衛門は溺死したのかというと、どうも

水死していない。

彼が水死したという記録が残されていないのだ。

『大相撲鬼才人物烈伝』（小池謙一編／東京堂出版）によると、彼が水死体の語源となったのはその容貌が関係していたらしい。

水膨れしたかのようなぶよぶよの体型のうえに、肌の色が非常に青白かったため、まるで水死人のようなだと江戸っ子たちの間で噂が広まり、いつしか水死体を「土左衛門」と呼ぶようになっていったという。

水路が発達していた水の都・江戸の町では、人々が水死体を発見することは珍しいことではなかった。

見慣れた水死体の姿に成瀬川という力士を重ね合わせて呼ぶようになり、それが日本全国に定着してしまったというわけだ。

## 最近の伝書鳩は……

伝書鳩の歴史は古く、紀元前3000年頃、エジプトの漁船が使用した記録が残っている。日本でも1950（昭和25）年くらいまでは軍を中心に多くの伝書鳩が利用されていた。

現代ではメールやファックスなどの通信機器が発達し、利用することはまずない。

しかし、伝書鳩を愛する人は絶えず、現在も伝書鳩のレースは行なわれている。

ところが、レースに出たハトは、

あまり帰ってこない。

帰還率が次第に減っている。原因のひとつに、携帯電話の普及による電磁波の増大があげられている。

ハトや渡り鳥の方向感覚は、右目の網膜上にある磁石の性質を持つ細胞に関係があると言われる。この細胞で地球の磁気の向きを比べながら方向を知るのだ。

だから、携帯電話などの電磁波で地球の磁気を乱されると、ハトの方向感覚は狂ってしまうというわけだ。

正確な統計があるわけではないので、電磁波とハトの方向感覚の関係ははっきりしていない。だが、人間にも同様の細胞が見つかっていることを考えれば、このまま電磁波が増えれば、家に

大阪・堺市を走るバス路線のなかには……

「どうしてつけたんだろう？」と思ってしまうへんな地名や駅名があるが、バス停も負けていない。なんと、

**「毛穴なかよし橋」というバス停がある。**

事情を知らない人には決して命名できない名前だが今も確かに存在する。

さかいし

場所は大阪府堺市。市内を走る南海バスの東山営業所内のバス停である。不思議な名前を持つバス停は、JR西日本阪和線津久野駅、泉北高速鉄道深井駅を結ぶバス路線の途中に位置している。

南海バス株式会社によると、この不可思議なバス停名がつけられたのは1981（昭和56）年。

バス停のある町の名が「毛穴町」であること、バス停のすぐそばに「なかよし橋」という橋があることから、その2つを合体させたという。

ちなみに毛穴町の読み方は「けなまち」。

人類史上初の有人飛行に成功したライト兄弟だったが……

一般の人を対象とした宇宙旅行が企画され、参加者が募集されるようになった。もはや人類が地球を飛び出していくのが珍しくない時代になりつつある。

だが、かつては人が空を飛ぶことすら夢物語だった。そんな夢物語を現実にしたのが、アメリカのライト兄弟である。

ライト兄弟は1903年に人類初の有人飛行に成功し、未知の世界への可能性を一気に広げたのだ。

ところで、歴史の教科書を見ても「ライト兄弟による成功」とあるため、兄弟が2人乗りの飛行に成功したものと思われがちである。

しかし、彼らが開発した「フライヤー号」は1人乗り。実際に搭乗していたのも1人だった。

では、人類初飛行を遂げたのは兄弟のうちのどちらだったのか。記念すべき1903年12月17日、

**最初に飛んだのは弟だった。**

最初は弟のオービルが乗り、次に兄のウィルバーが乗るといのように交互に搭乗していた。兄弟は合計で4回の飛行に成功している。

ファックスもなかった時代の新聞社は……

ニュースの速報性は、新聞社にとって社命にも関わる重要なもの。いつの時代でも、他社よりも早く伝えようと努力してきた。

パソコンどころかファックスも開発されていない時代、いち早くニュースを届けるために新聞各社は、なんと

**伝書鳩を使って原稿を送っていた。**

朝日新聞社によると、同社は1893（明治26）年から伝書鳩を飼いはじめ、2年後の明治28年から原稿を運ぶために利用していた。

社内に「通信鳩係」が設置されたほどだから、伝書鳩を重視していたことが偲ばれる。毎日新聞社でも1924（大正13）年から伝書鳩を使い、同じように写真や原稿を送っている。

一時はそれぞれの新聞社で、数百羽もの伝書鳩が活躍していた。

しかし、通信機器の発達とともに彼らは役目を終えることになる。朝日新聞は東京本社が1961（昭和36）年、大阪本社は1966（昭和41）年で通信鳩係を廃止した。

東京本社では鳩を愛好家に譲り、当時有楽町にあった本社の屋上に記念碑を立てている。

オニグモの巣づくりは、意外とたいへんで……

環境問題が叫ばれ、リサイクル活動がさかんになった昨今の人間社会。だが、昆虫の世界には、もっと早くからリサイクル活動を実践している虫がいる。クモの一種であるオニグモである。

彼らは使用済みとなった自分の古い巣を食べて、新しい巣づくりに利用しているのだ。

クモは自分の腹の後端にある糸つぼと呼ばれる部分から糸を出して網状の巣をつくる。クモの巣は毎日同じ場所にあるので、張りっぱなしのように見えるがそうではない。オニグモはつくった巣を

**毎晩張り替えている。**

このときに、古い糸は食べてしまう。

もともと、クモがつくり出す糸には、スピドロインと呼ばれるタンパク質が含まれている。それに加えて、周囲の花から飛散した花粉なども付着している。

つまり、オニグモにとっては古くなった糸も大切な栄養源なのだ。網にかかる獲物だけがクモの食糧ではないということ。

スルメイカは産卵すると……

スルメイカとは日本を代表するイカであり、日本近海に生息する固有種でもある。安くて手軽な海の食材として、天ぷら、煮物、イカ飯など、毎日の家庭料理に大活躍する。

しかしこのスルメイカ、産卵直後には、

**文字通りスルメのように干からびてしまう。**

これは、皮だけになった状態を指して「皮イカ」と呼ばれる。産卵に精力を注ぎ込み過ぎたために、やせ衰えて肉が薄くなってしまふのだ。

オスはメスと交わったあと、メスは産卵したあとに死んでしまふのだが、このとき「皮イカ」の状態になっている。

「皮イカ」は、言わば天然のスルメだが、中身がスカスカになってしまふのでおいしくない。

鳥取県栽培漁業センターの話によると、自然界でのスルメイカの産卵については、まだ研究途上にあるという。1986（昭和61）年になって、飼育したスルメイカの産卵の様子を撮影することに成功している。

スルメイカは巨大な風船状の卵塊を産むのだが、それはゼリー状でどろどろしているという。

「働」という字は……

漢字の誕生は諸説あり、はっきりとはしないが、紀元前10世紀頃、古代中国の殷で誕生したと考えられている。その後、日本にも伝播して使われるようになった。

つまり、漢字は中国が本家本元。日本側から見れば、漢字を使って表現する手法を中国から輸入した形となる。

ところが、日本で誕生した漢字が、中国で使われている場合がある。たとえば、「働（ドウ／はたらく）」という漢字は、

**中国が日本から逆輸入した漢字である。**

日本で誕生したオリジナルの漢字のことを国字というが、「働」はそんな国字のひとつ。

誕生したのは鎌倉から室町時代だと言われている。本格的に普及したのは明治時代になってから。その理由は産業の変化にともない、欧米語を翻訳する機会が増えたことに関係している。

「働」の「ドウ」という音をあらわすのは「動」の部分だ。この「動」は、農器具のスキから派生した文字だったこともあり、農耕に従事する意味で使われていた。

したがって、産業革命以降の欧米諸国の技術を用いて機械を動かす際にはそぐわない面があった。そのため、ニンベンがついた「働」が普及することになったのだ。

パラグアイ共和国の国旗は……

オリンピックやサッカーのW杯などが開催されると、オラが国のチームを応援しようと人々は熱狂する。このとき、小ささまざまなサイズの国旗が会場内外で打ち振られる。

国旗は、それぞれの国家の主権や尊厳を象徴するシンボルだ。そんな国旗であるがゆえに、旗のデザインや配色にはそれぞれの国の創意工夫が凝らされている。国土の特徴や文化、建国理念や目標をうまく表現しようとするためだ。

そんな国旗のなかで唯一無二、他国にはないデザインの国旗を採用しているのが南米のパラグアイ共和国。

赤、白、青の3色が旗を横に3等分し、中央にヤシの葉とオリーブの葉のリースが星を囲むような国章がある。一見すると、特別変わったところもないようだ。

しかし、ユニークなのは国旗の裏側。なんと裏側の中央には植物のリースではなく、ライオンの紋章が描かれている。つまり、

**表と裏でデザインが異なる。**

このような旗は、世界広しといえどもパラグアイだけだ。

V

読み出したら止まらない驚きの事実

## 日本最初の運動会は……

日本初の運動会が開かれたのは、1874（明治7）年3月21日。東京・築地にあった海軍兵学寮のことだ。

なぜか運動会というのにブタが登場したのは、全18種目のうちの14番目。「神鷹捉」という競技だ。その内容はプログラムに「豚を放ち其の奔駆を追ひ尾を捉して之を獲るを務めしむ」と書かれている。つまりは、

### 「ブタ追い競争」だった。

また、同じようなブタ追い競技は、とりを飾る18番目の種目にも登場している。ブタをグラウンド内に放して、生徒が追っかけ、抱きかかえるという単純な競技なのだが、これが観客には大好評だったらしい。

なにしろ、子ブタのからだに「ヘット」というヌルヌル滑る潤滑剤を塗りつけて場内に放したので、生徒が捕らえようとしてもツルツル滑ってなかなか抱きかかえきれない。ブタは四方八方に逃げ回った。

最後にひとりの生徒が1匹のブタを抱き止めたときには、観客が大喝采を送ったそうだ。

「カツラ」と言ってもさまざまで、なかには……

日本で陰毛専用のカツラを製造している企業は、数は多くないもののいくつか存在している。

代表的なのは「ナイトフラワー」という商品名で陰毛カツラを製造販売している1925年創業の「コマチヘア」。社長の岩崎氏によると、創業間もない頃にはすでに製造をはじめたという。

1925年というと大正14年。なんとこんな時代から、

### 陰毛専用のカツラがある。

気になるのはどんな人が買い求めているのかということ。岩崎氏によると、基本的には女性専用の商品で、しかも圧倒的に陰部無毛症という、アソコに毛が生えないことに悩む若い女性の客が多いという。

団体旅行で温泉に入る際や結婚初期など、陰毛が人目に触れる機会に無毛症を知られたくないという気持ちから買い求めている。

なんこう

現在、無毛症の治療法として、男性ホルモンを含有した軟膏を塗るほか、植毛をする方法もある。そのなかで、カツラはもっとも手軽な対処法として支持されている。

バチカン市国を守る衛兵は……

カトリック教会の最高司祭であるローマ法王を元首とするバチカン市国。同国は、わずか0.4平方キロの面積という世界最小国家としても知られている。

カトリックの総本山であり、元首ローマ法王の発言は、ヨーロッパのキリスト教社会のなかで大きな影響力を保持し続けている。

このバチカン市国を警備する衛兵になるには、いくつかの条件がある。ローマ法王庁大使館に確認したところ、条件として、カトリック教徒であること、19歳〜25歳の独身男性であること、身長が174センチ以上であることを求められるらしい。

そして意外なことに、スイスの国籍を有する人物であること。つまり衛兵は、

**すべてスイス人である。**

なぜスイス人でなければならないのか。

その理由は16世紀のクレメンス7世の時代、神聖ローマ帝国のカール5世の軍がバチカンを攻め込もうとしたときに端を発している。

もともとスイスは傭兵を派遣することを産業の一環としてきたが、このときバチカンで任務に就いていた約150人の衛兵たちは、法王を守って壮絶な戦死を遂げた。

働きバチは……

英語にも“busy as a bee”という表現があるように、いつも忙しいイメージの働きバチも、実働時間は意外に短い。

ミツバチは、生まれた時期や羽化してからの日数で仕事の内容が変わる。

若いうちは朝も夜もないが、外で働くようになるると昼夜のリズムに合わせるようになる。蜜や花粉を集める働きバチは、昼間だけ働いて夜は休憩しているのだ。

朝から晩まで休みなく花に通い続ける働き者もいれば、午後からしか働かない怠け者もいる。平均すると、

**1日6時間しか働いていない。**

それ以外は巣のなかでのんびり過ごし、残業もない。しかもこれは実働時間でなく、人間でいえば会社にいる時間で、エサの時間などを引くとさらに労働時間は短くなる。

こうして見ると、人間のほうがたくさん働いているようにも思える。

しかし、よくよく計算してみるとハチの世界もそれほど甘くない。雨で仕事ができない日はあっても、人間と違って週休2日があるわけではない。働きバチが6時間×7日⇨週42時間労働とすると、8時間×5日⇨40時間の人間と週あたりの労働時間はほぼ同じである。

世界最速を決める100メートル走では、合図直後にスタートしても……

たとえスタート合図が鳴った後であろうと、その時間が合図から0.1秒未満であれば、

フライングになる。

これが現在の短距離界のルールである。

これは、電子スターティング・ブロックというフライング判定装置が導入されたことによって定められた。

この装置は「国際陸上競技連盟憲章」によって、国際的な大会（オリンピック、世界選手権、アジア大会など）に導入することが決められている。

合図のピストル音がしてから0.1秒未満で選手がスタートしてしまうと、フライング信号がスターターに送られるしくみになっている。

ではなぜ0.1秒なのか。それは、人間の脳にピストル音の刺激が到達してから反応して行動するまでには、最低でも0.1秒はかかるとされているから。

これが人間の聴覚の限界のはずだから、0.1秒未満でスタートできるのはおかしいというわけだ。

「弘法にも筆の誤り」ということわざで、弘法大師が間違えた字は……

「猿も木から落ちる」「河童の川流れ」と同様、名人、達人も失敗するという意味で使う「弘法にも筆の誤り」。このエピソードは、『今昔物語』に描かれている。

舞台は京の都、大内裏の応天門。勅命を受けて、この門に掲げる額を書いた弘法大師こと空海は、書き終えた額を門にかけてみた。

するとなんとたることか、「応」の1画目の点を忘れ、「」になっているではないか。なんと間違ったのは、

小学校で習う「応」だった。

このときの空海の対応は、「応天門の額打ちつけて後これを見るに、はじめの字の点、すでに落ち失せたり。驚きて筆をなげて点を付けつ」と記されている。

日本書道界の祖とされる空海は、筆を投げて1画目の点を入れたというから、コントロールも超一流だったわけだ。そして、「もろもろの人これを見て、手を打ちてこれを感じず」とある。

真言密教の開祖で、手足口を用いて五筆で詩を書き、流水に「龍」の字を書くと、そこから本当の龍が生まれたという伝説がある弘法大師には、意外な間違いである。

やはり彼も人の子だったということだろうか。

北海道の道央自動車道には……

黄色地の上に、きつねは赤色、たぬきは緑色で描かれ、きつねとたぬきが仲良く並んでいる看板がある。

これはなにも某カップ麺の広告板ではない。この看板が設置されているのは、北海道道央自動車道滝川市付近。

ここでは、まれにきつねとたぬきが道路に進入することがあり、ドライバーに注意を促すために、

**「赤いきつねと緑のたぬき」の飛び出し注意の看板がある。**

標識なのかというと厳密には違う。動物注意の標識は、国土交通省が制定する道路法令で「黄色地に黒い鹿」と定められている。それ以外は補助看板と呼ばれている。

この看板も、高速道路を運営管理する東日本高速道路株式会社の北海道支社が設置した補助看板だ。

設置した経緯について尋ねてみると、当時の担当事務所が閉鎖されてしまったため、詳細は不明とのこと。10年ほど前に設置されたが、デザインした人物も不明。

## CDの最大録音時間74分42秒は……

アナログレコードの片面の録音時間は最長約25分と短く、オーケストラの演奏を録音することには向いていなかった。クラシックの名曲は長いものが多く、途中で裏返さなければならぬ場合も少なくなかったのだ。

日本のソニーとオランダのフィリップス社がCDを共同開発したとき、フィリップス社がこだわったのはサイズだったが、ソニーが一番こだわったのは最大録音時間。

フィリップス社は録音時間60分、ディスクの直径は11.5センチにすることを強く主張。一方のソニーも、75分で12センチと譲らなかつた。

結局、当時のソニー副社長のひと言で決着がついた。「ベートーベンの『第九』もすべて録音できなければ意味がない」ということで、CDは最大録音時間が74分42秒となったのである。

中途半端なこの時間は意外にも、

**ベートーベンの『第九』を録音するためだった。**

これで『第九』はすべて収まり、ほかのクラシック音楽の95パーセント以上が途切れず聴けるようになったという。

子どもたちに夢を運ぶサンタクロースには……

クリスマスシーズンに欠かすことのできない人物と言えばサンタクロース。

赤地に白い縁どりの服、赤い帽子、そして真っ白なヒゲは、パーティ用の衣裳として販売されているほどだ。これさえ着れば、誰もが気軽にサンタクロースに変身できる。

だが、世界中の誰からもサンタクロースと認められるためには、試験を受けなければならぬ。たとえサンタクロースといえども、

**国際認定試験がある。**

国際認定試験は、グリーンランドに本部のある国際サンタクロース協会が実施している。これまで、世界で約180人が合格し、公認のサンタクロースとして活躍している。

日本人ではアジアでただひとりという公認サンタクロースが誕生している。その人物とはラテン音楽の第一人者としても知られている。パラダイス山元氏。

山元氏のホームページによると、試験は英語かデンマーク語でのスピーチ審査、サンタの公用語とも言える「ホーホーホー」の発声審査、煙突から人の家に入る実技試験などがあるという。

また、日本国内にも独自の「サンタクロース検定」がある。サンタクロース研究所が主催して2005（平成17）年11月より実施されている。合格すると認定書とワッペンがもらえる。

日本人が発明した「オセロ」は当初……

「オセロ」が日本で誕生したゲームというのは有名な話だ。日本人なら誰もが知っているこの「オセロ」は、発明者の長谷川五郎氏が子どもの頃に遊んでいたゲームが原型になっている。

1973（昭和48）年に発売されると、瞬く間に空前のヒット商品となり、現在の国内のオセロ人口は約6000万人とも言われる。日本オセロ連盟の会員数も数千人にのぼり、世界大会も開催されている。

長谷川氏は、茨城県の旧制水戸中学校1年生だった1945（昭和20）年9月、囲碁をよく知らない同級生たちと、相手の石を挟んだら色を変えて取るというゲームを思いついて遊んでいた。

だからオセロの駒は黒と白。ところが、当時は白の石が黒に変わると、その都度すべてを取り替えていたので、手数が進むと大変。

とても面倒くさいゲームだった。

そこでボール紙で表裏が黒と白の駒をつくり、やがて商品となって発売されるときにこの形が採用されたというわけ。商品化される前は、牛乳びんの蓋を利用して遊んでいたこともあるそうだ。

水泳のメドレーリレーで自由形を泳ぐ人は……

水泳に「平泳ぎ」「背泳ぎ」「バタフライ」という種目はあっても、「クロール」という種目はない。

しかし、大会では、多くの選手がクロールで泳いでいる。その種目は「自由形」である。「自由形」のルールは、飛び込みスタート、からだの一部を壁につけてのターンなど、共通ルールを違反しなければ、どんな泳法でもかまわないとされる。

だから、驚異的に平泳ぎが速い選手がいて、クロールより速いというなら平泳ぎでもOKだ。ほかの選手より速くゴールすれば勝ちとなる。

しかし、メドレーの「自由形」には、「平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ以外の泳法で泳がなければいけない」というルールがある。これは「個人」でも「リレー」でも同じ。

というわけで事実上、メドレーの自由形は、

**クロールでしか泳げない。**

クロールは、1900年にイギリスのフレデリック・キャビールが考案した泳法と言われている。これが現在もっとも速く泳げるので、「自由形」となれば、みんなクロールで泳ぐのだ。

ゲートボールを考案したのは……

ゲートボールは、その名の通り、木のボールをステイックでたたいてゲートにくぐらせ、ゴールポストに当てる競技である。

ゲートボールの歴史は意外に古く、戦後間もない1947（昭和22）年に北海道で生まれた。これを考案したのは、

パン屋さん。

青少年活動に携わっていた鈴木栄治氏（後に和伸と改名）は、戦後の遊び道具のない子どもたちのために、道具を簡単につくれて、気軽に健康的なゲームを考えていた。

そして、フランスのクロッケーをヒントにしてひとつのゲームを思いついた。

これがゲートボールの誕生だ。

鈴木氏が考え出したゲートボールは、すぐには広まらなかった。だが、ルールが簡単で覚えやすく、体力的な負担も少ないということで、その後、地方の教育委員会が将来の高齢化社会に備えて普及活動を開始。

昭和50年代には、高齢者の中で爆発的なブームになり、1984（昭和59）年には日本ゲートボール協会が設立され、統一ルールも定められた。

## マラソン大会の42・195キロは……

マラソンコースの測定は2つの方法で行なっている。

ひとつは、長さ50メートルのワイヤー巻尺を使った測定。

**地道に巻尺で測る。**

原則として、歩道から30センチ離れた車道の上を測定する。また公道から競技場に入る通路は、壁から30センチのところを計測する。測定員は約20名で、朝6時頃から行なうが、車道に出ないから渋滞を起こすことはない。

しかしなんとも気の遠くなるような作業だ。

もうひとつは、自転車にカウンターをつけて測る方法。こちらは3、4名で測っている。ハイテク時代になっても、人間の手によって測るのが規定である。

そのため必ずしも正確ではない。以前、大記録が出たボストンマラソンのコースを計測し直したら、1085メートルも長かったこともある。もし正確な距離だったら、さらによい記録が出ていたはずだった。

大会当日、車道にはテープが貼られているが、これは単なる目印でここを測っても42・195キロにはならない。

マジシャンが帽子から出す白いハトは……

日本奇術協会会長の北見マキ氏によると、マジシャンが出すハトは、

自分で飼育している。

自分で飼育しながら賢いハトを選別し、芸をしこんでいくのもマジシャンの仕事。本番で飛び出したまま帰ってこないケースも考えて、賢くて使えるハトは、親羽根を切っておくこともあるそうだ。

使われるハトの種類は、ジュズカケバトの白変色というもので、通称「銀バト」と呼ばれる。公園や駅前などで飛んでいるハトとは、種類も大きさもかなり違う。

普段目にするハトよりはるかに小さく、人の握り拳よりも小さいぐらいだ。なぜ小さいハトでなければならぬのか。

それは、ハトを使ったマジックショーを想像すれば納得がいくだろう。小さなハトでなければ、ポケットや帽子に収まらない。

また、白いハトを使うのは、白は実際よりも大きく見える色だから。パツと出すときに羽根を広げるのも、少しでも大きく見せるためで、羽根を広げれば実際よりも4倍ぐらい大きく見えるという。

電器屋さんの店頭で映っているテレビは……

放送法第32条では、「（日本放送）協会の放送を受信することのできる受信設備を設置した者」に、NHKとの受信契約が義務づけられている。この義務は、NHKを見ないからといって逃れることはできない。

たとえば市販のテレビをNHKが映らないようにストッパーなどで改造しても、修理して直せるなら義務は免除にならないという厳しいものだ。

ただし、この受信契約義務が免除になる場合もある。学校や社会福祉施設、障害のある人や公的扶助を受けている人、地震、台風などの災害被災者や、「協会の放送の受信を目的としない受信設備」には契約の義務はない。

電器屋さんが販売目的で展示しているテレビは「協会の放送の受信を目的としない受信設備」にあたるため、

**NHKの受信料は無料である。**

また、監視カメラの映像を見るためのテレビなども同様だ。

ただし電器屋さんでも、店頭でない住居部分、事務所、休憩室などのテレビは、販売目的でないので、やはり受信契約が義務づけられる。

試験や授業には欠かせなかった「虎の巻」とは……

もっともポピュラーな「虎の巻」と言えば、中高生の教科書ガイドだろうか。確かに持っているれば、先生に指名されたピンチのときもあわてずにすむ。

しかし、もともとは兵法の秘伝を意味していた。それがやがて、兵法とは関係のない秘伝、秘訣を書いたものをあらわすようになり、今日に至っている。

「虎の巻」は、中国、周の時代の兵法書『六韜』の第4巻「虎韜」が語源だ。「韜」とは「弓袋」という意味。つまり、りくとう「虎の巻」は、中国、周の時代の兵法書『六韜』の第4巻「虎韜」が語源だ。「韜」とは「弓袋」という意味。つまり、ことう

### 「兵法の第4巻」という意味である。

トラは勢いさかんで人を恐れないことから、危機のときに驚かない方法を「虎韜」で説いている。

武王が、さまざまな状況でどうしたらいいかを周の功臣、太公望たいこうぼう呂尚りょしょうに問い、呂尚がそれに答えるという形で説いている。

この「虎韜」が中世の日本でも重宝されていたことを示すエピソードがある。『義経記』によると源義経は、一条堀川の陰おんみょうじ陽師きいちほうげん、鬼一法眼の持っていた兵法の秘伝を、法眼の娘の手引

「孫の手」の「孫」とは……

かゆ  
痒いところに手が届く便利な「孫の手」。大泉逸郎のヒット曲『孫』のような、かわいい孫に  
か  
搔いてもらえれば、気持ちよさもまた格別だろうが、じつはこの「孫の手」は、その「孫」のこ  
とではない。

まこそうよう  
「孫の手」は、中国の故事「麻姑搔痒」まこそうよう麻姑をやとって痒きを搔く」に由来する。

おうえん  
後漢の桓帝の時代、王遠という仙人がいた。この王遠が、弟子の蔡経さいけいと十数年ぶりに再会す  
る場面で女仙人の「麻姑」が登場する。

王遠が、「蔡経の家に来ている。久しぶりに会いたい」と麻姑に使いを出すと、すぐに麻姑は  
やって来た。

麻姑の鳥のような爪を見て蔡経が、「この爪で背中を搔いてもらったら気持ちいいだろう  
な……」と考えていると、王遠に叱責されたというエピソードがある。  
つまり「孫の手」の「まご」とは、もともとは麻姑と書き、

女仙人のことである。

地球から38万キロ離れた月の土地は……

月の土地販売なんて絵空事と笑ってはいけない。現実にはアメリカのデニス・ホープという人物が設立したルナエンバシー社という企業が販売を開始している。しかも、

**今なら1エーカー（約1200坪）を3000円で購入できる。**

破格の安値ではないか。インターネットで購入すれば、さらに10%の割引で2700円で購入できるという。1エーカーというと約1200坪。サッカーのグラウンドがまるまる入る面積だと想像すればいい。

アメリカでは1996年から販売を開始。元大統領やハリウッドスター、有名企業が次々と購入した。現在では全世界175カ国で販売し、日本でもすでに6万人以上が、月の土地を購入済みという。

ほんとうに地球以外の天体の不動産販売は可能なのか。ルナエンバシー社によれば、1967年に批准された宇宙条約を根拠としている。

宇宙条約によると、国は月をはじめとする天体の所有権を確保できないとあるが、個人や企業の所有を禁じていない。

イソップ童話のなかの「アリとキリギリス」は……

イソップ童話と言えば、動物や植物を擬人化して教訓を説く童話集である。なかでも「アリとキリギリス」は日本でよく知られている物語。

夏の暑さにも負けずせっせと食糧の備蓄に励んだアリに対して、歌を歌ってのんびり遊んでいたキリギリス。寒い冬が到来するとキリギリスは、生活に窮してしまふ。その困った様子を見て、アリが「そら見たことか」と痛烈に風刺するストーリーである。

だが、原作を調べてみるとイソップ童話のなかに「アリとキリギリス」の話は見つからない。じつは、

もともと「アリとセミ」だった。

セミがいつの間にかキリギリスに変わっているのだ。

これは、イソップ童話が紀元前6世紀に創作されてから、文字ではなく、口で伝承されて広まったことと関係している。

セミは熱帯系の昆虫であったため、この話が伝承された寒い国ではピンと来なかったようだ。そのため、セミに代わる昆虫としてキリギリスが採用され、いつしかこちらが主流となってしまった。

コアラのフンを材料に、紙をつくると……

オーストラリアに生息するコアラ。愛らしい姿で日本でもすっかり人気者となっている。このコアラが排泄するフンを材料にして紙をつくることができる。しかもその紙は、

**心地良い草原の香りがする。**

実際に愛知県の東山公園協会で、コアラのフンを使った紙をつくっている。

同協会によると、紙をつくったきっかけは2005（平成17）年に開催された愛知万博。地元開催の万博を盛り上げようと、東山動物園にいたコアラのフンで「うんちペーパー」をつくることを思いついたのだ。

乾燥させたフンを細かく砕き、牛乳パックを再利用するための市販のセットに流し込んでつくる。フンの割合は牛乳パックに対して1〜2割程度。

100パーセント、コアラのフンで紙をつくろうとすると、ぽろぽろと崩れやすく使いものにならない。

できあがったコアラのフンを使った紙は、爽やかなハーブ、あるいは草原の香りがする。これは、コアラがユーカリの葉のみを食べる草食動物であることが関係していると考えられている。

寿司屋で「飯のことをシャリと言っが……

寿司屋の職人たちは、なぜか白飯のことをシャリと呼び、通を気取りたい人たちも、それを真似てシャリという表現を使う。

だが、白飯のことをシャリと呼ぶのは寿司職人だけの習慣ではなかった。戦後、食糧事情が悪化した日本では、白飯を食べるのは贅沢なことだった。

精米する余裕もなくなり、徐々に七分づき、三分づきと、玄米に近づいていった。ひどいときには玄米に豆を混ぜて食べていた。

このような時代を経験した日本人は、憧れの思いを込めて白く輝く白飯を「銀シャリ」と呼んだのだ。

ぶつしやり

シャリを漢字で書くと「舍利」。舍利とは、仏教の世界で遺骨を指し、仏舍利とは仏陀の骨を指していた。

仏陀の死後、彼の骨は粒状にまで細かく破碎され、アシヨカ王によって各地に分配されたと伝えられている。日本各地にも仏舍利を祀った舍利塔が建てられている。

この仏舎利の形状が米粒に似ていることから、白飯のことをシャリと呼ぶようになったのだ。だからシャリは、

カニのなかには……

一般的にカニと言うと、左右に横歩きする生物だとイメージする人が多い。「カニの横ばい」と言われているほどで、カニの真似をしようとすると、たいていの人が両手をチョキにして横に動こうとする。

しかし、すべてのカニ類が横歩きをするわけではない。なかには、

**前に歩くカニ、後ろ歩きするカニもいる。**

前に歩くことができるカニは、クモガニ類、コブシガニ類など。脚が細く、付け根に余裕があり、甲の輪郭が角ばっていないため、前に進むことができる。

反対に、はさみ脚やほかの脚が邪魔になり、後ろにしか歩けないのは、アサヒガニ、カラツパ類などだ。

また、タカアシガニはほかのカニに比べて脚が長いため、前後左右どの方向にも自在に歩くことができる。

横にしか歩けないカニは、人間の膝の関節のように一定の方向にしか曲がらないことが原因である。

ニワトリが卵を産むのは……

ニワトリの産卵は明け方からはじまって、午前9〜10時あたりがピークとなる。産卵は、

午前中。

この段階で70パーセント近くが産み終える。朝「コケコッコー」と鳴くのはオスだけだが、メスもやはり朝型のようだ。

これはニワトリの本能によるもの。外敵に狙われやすい夜に、卵を産んでいる場合ではない。比較的安全な午前中のうちに済ませてしまおうというわけだ。

ニワトリのお腹のなかで卵ができるまでには、1〜2時間の個体差はあるものの、約25時間が必要。

たとえば、ある日の午前9時に卵を産んだニワトリは、翌日は10時、その次は11時とだんだんずれていく。産卵時間が午後にまでずれ込むと、その日は産まずに翌日の早朝に産む。

メスは生後120日目くらいから小さな卵を産みはじめ、180日目あたりにはほぼ毎日産むようになる。

25時間周期で卵を産むために、産卵時間が午後になるとその日は産まないが、翌日になると産卵を再開する。しかも丈夫なニワトリならば2年間産み続ける。なんともすごいペースである。

VI

思わず聞き耳をたてる赤裸々な事実

電力会社は電柱を立てた場所の地主に対して……

電気なくして現代生活はまったく機能しない。それほど、世のなかは電化され、その製品であふれている。そんな電気を各家庭へ送るため、日本全国に立てられているのが電柱である。

この電柱、およそ30メートル間隔で立てられており、その数はNTTと電力会社の電柱を合計すると約3000万本にもものぼる。

電気の供給に必要なものなので、時には個人所有の敷地内に電柱を立てなければならぬことがある。このとき、電力会社は土地の所有者に対して、

**土地使用料を支払っている。**

電柱にも土地代がかかるとは意外に思うかもしれないが、使用料については、電気通信事業法の第132条2―5に基づいて支払われている。

では、具体的にいくらくらいの使用料が支払われるのかと言うと、一概には言えない。土地の使用料は、民地か官地か、また民地でも宅地か田畑かなどで異なり、電力会社によっても異なるからだ。

だが、電柱1本につき、1年間で10000〜15000円くらいが相場というのが実情のようだ。わずかな金額だが、1本の電柱が占める土地の面積を考えればこのくらいだろうか……。

子どもの礼儀作法を示した教科書に……

子どもの礼儀作法に厳しくし、上品な人間に育てようという風潮が強かった16世紀のヨーロッパ。そんな時代に、礼儀作法を教えこむ本のなかで、

**上品な唾の吐き方が書かれている。**

その本は、1530年にオランダで出版された『子供の礼儀作法についての覚書』で、当時オランダだけでなく、広くヨーロッパで読まれた1冊である。

それによると、「唾を吐くときは他人にかからないように背を向けてやりなさい」「出てきた唾を決して飲み込んではいけない」とある。

そもそも唾を吐くこと自体、今日の礼儀作法にない。それが当時のヨーロッパの本に大真面目に指南されているのだ。

唾の吐き方まで書いたこの著者は、怪しい人物ではない。キリスト教哲学者・教育者であり、ルネサンス期を代表する古典文学者・人文主義者でもあるエラスムス。当時から教養にあふれた人物として名高い人格者であった。

唾の吐き方は第1章の「身体について」のなかで触れられていて、他章では衣服、食事、会話、遊び、寝室、教会での作法など、生活全般にわたる作法が伝授されている。この本はベス

てるてる坊主にはじつは性別があり……

最近ではあまり見かけなくなったが、昭和の頃までは子どもたちが翌日の晴れを願って自宅の軒下などにてるてる坊主をぶらさげていたものだ。

てるてる坊主について、性別を考えたこともなかった人がほとんどだろう。意識したとしても、「坊主」と名づけられていることもあって男だと思いのが普通である。だが、その起源をたどってみると、

**なんと女性だった。**

ようすこう

そうせいじよう

中国の揚子江付近の伝承に見られる掃晴娘という小さな人形が、てるてる坊主の原型である。

中国では、白い紙でできた女の子のからだに紅緑色の紙製の着物を着せ、小さなほうきをくくりつける。それを軒下に吊るして翌日の晴天を願っていた。

この風習が平安時代に日本に伝わり、いつの間にか坊主になった。江戸時代には、願いが叶って晴天になると、ダルマに目を書き込むように、てるてる坊主にも目を入れるという風習があったと記録に残されている。

## コンビニの雄、セブン・イレブンは最初……

今やコンビニエンスストアは、全国のいたる場所に店を構えている。

食料品から日用品、運送業務の委託引き受け、公共料金の支払いまで、24時間あらゆるものが購入できる便利なスポットである。

そんなコンビニエンスストアの老舗であり、数多くのチェーン展開をしているのがセブン・イレブンだ。このセブン・イレブンはアメリカで誕生したのだが、じつは最初は、

**ただの氷屋だった。**

約80年前の1927年、アメリカのテキサス州のオーククリフという町にあった1軒の小さな氷屋。この氷屋を運営するサウスランド・アイス社が現在のセブン・イレブンのルーツである。

当時は一般家庭に冷蔵庫が普及していなかったため、冷蔵用の角氷は庶民にとって必要不可欠なものだった。

販売責任者だったジョン・ジェファアソン・グリーン氏は、繁忙期の夏季には定休日もなしに毎日16時間にわたって営業したため、地域の人々に喜ばれていた。

やがて、氷のほかにパンや牛乳なども扱ってほしいという要望を受け、コンビニエンスストアへと商売を拡大。

広辞苑に「夜逃げ」は「夜の間にかっそり逃げ去ること」とあるが……

借金の取り立てから逃れたい、あるいは男女関係のもつれを解消したい、ストーカーの魔の手から逃れたいなどの理由から、現在でも夜逃げする人々はあとを絶たない。

夜逃げというと、姿を目撃されにくい深夜にするものと思いがちである。『広辞苑』で「夜逃げ」を調べてみても、「夜の間にかっそり逃げ去ること」とある。

だが、複数の興信所に問い合わせしてみたところ、現実はずしもその通りでないようだ。

**実際は真つ昼間に逃げる人のほうが多い。**

とくにひとり暮らしのアパートから逃げる場合は、昼間に実行する確率が高くなる。

その理由は、昼間のほうがほかの部屋の住人たちが働きに出て不在であるケースが多く、目撃されにくいからだという。

確かに夜半になると、住人は帰宅しており荷物などを運び出す音にも気づかれやすく、かえって逃げ出す行為が目立ちやすくなってしまふ。

もちろん、周囲の状況や監視する相手の行動パターンによっては、深夜に逃げたほうが得策であるケースもある。

## 魚のコイの歯は……

魚のコイは食用としてだけでなく、その美しい色彩からニシキゴイのように観賞用としても愛されている。立身出世の象徴とも言われ、古くから日本人に親しまれている魚である。

そんなコイだが、大きな特徴のひとつに口に歯がないことがあげられる。口に歯がなければ、どうやってモノを食べているのだろうか？と不思議に思うが、そこは意外な事実がある。見えないところにちゃんと歯は存在している。

**口にはなく咽の奥にある。**

いんとうし

このような歯のことを咽頭歯と言う。

コイと言えば、池をのんびりと泳ぎながら口をパクパクさせる様子が目につく。それに加え、あごに歯がついていないとなると、コイの力はたいしたものではないような気がする。ところが！コイの咽頭歯は、10円玉を二つ折りにできるほど、力があるのだ。

この力強い咽頭歯で噛み砕かれた餌は、からだの奥の消化器系へと送られていく。ここにもコイならではの特徴がある。コイには胃がない。飲み込まれた餌は、食道から直接腸へと進むのだ。

あるインド人研究者のイグ・ノーベル賞受賞の理由は……

巨大な姿で見るものを圧倒すると同時に、やさしい目を持った動物。こう言われれば、誰もがゾウを思い浮かべるだろう。動物園でも愛されているゾウに関する研究は、現在も世界の動物学者が進めている。

そのなかには、一風変わった研究もある。「一風変わった」というのは、

**インドゾウの表面積を求める公式を割り出したから。**

インドの獣医学者で、ケラーラ農業大学で研究を続けていたシユクリマー博士がその人物。長年の研究の結果、博士はインドゾウの表面積を求める公式を編み出すことに成功する。その公式とは以下の計算式である。

インドゾウの表面積  $\parallel 8 \cdot 245 + 6 \cdot 807 \times \text{身長} + 7 \cdot 073 \times \text{前足の長さ}$

複雑な計算式だが、なぜここまでゾウの表面積を割り出すことにこだわったのか。

「ウォームビズ」用として開発されたウェアのなかには……

日本政府が環境にやさしい職場づくりを目指し、提唱している「ウォームビズ」。

具体的には、冬の職場の暖房温度を以前よりも低く設定し、より暖かい服装で仕事に臨むことを勧めている。

その目的は、消費エネルギーを節約し、地球環境を保護することにある。これにともない、洋服メーカーはより暖かく洒落っ気のあるウォームビズ用のウェアを開発して提供。

これまで背広にネクタイ一辺倒だったサラリーマンや、制服のOL相手に売り上げアップを狙っている。

そんな動きのなか、非常に興味深い製品が開発された。「ウォームビズ」用として開発されたウェアのなかに、

**温度センサーつきの「ウォームビズブラジャー」がある。**

開発したのは女性用下着メーカーの雄、トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社。ボア素材のブラジャーの内側には遠赤外線を放射する天然石が練りこんである。

さらに、温度センサーが内蔵されており、室内の温度が20℃を超えると点滅ランプとブザーで知らせてくれるハイテクブラジャーなのだ。

## 美容外科の起源は……

顔のシワ伸ばしから、豊胸術など、今日の美容外科は気軽に利用できるご時世となっている。美容外科は形成外科から枝分かれして発展した分野。

その歴史は古く、紀元前1500年頃のインドでの造鼻術に行きつく。エジプトで紀元前3000〜2500年頃に鼻の傷を治療した例はあるが、本格的な形成外科的処置法はインドで開花した。

当時、罪人に対して「鼻そぎの刑」が執行されていた。文字通り鼻をそぎ落としてしまう刑だったが、同時に罪人の鼻をもとに戻す手術も存在していた。インドは世界最高の医学水準にあったのだ。

この造鼻術は、額の皮膚を使って鼻を再生するという方法で行なわれていた。つまり美容外科の起源は、

**残酷な鼻そぎの刑にある。**

厳格なキリスト教色の強かったヨーロッパでも、フランス革命後の自由な雰囲気の中、古代インドの形成外科技術が注目されるようになる。西欧社会における美容外科は、ここから発展した。

人間の体内の血管を1本につないでみると……

人間のからだのなかには無数の血管が走っており、心臓から送り出される血液をからだのすみずみにまで運んでいる。それでは、ひとりの人間が持つ血管の長さは、どれくらいになるのだろうか。

血管には動脈、静脈、そして毛細血管の3種類がある。これらをすべて繋ぎ合わせると、その長さは成人で約10万キロにまで達する。地球1周の距離が約4万キロと考えれば、

**ほぼ地球2周半分の長さになる。**

ちなみに、10万キロという長さは、時速700キロのジェット機で飛んだとしても、到達するまでには約6日もかかるという途方もない距離だ。

また、大動脈は血管のなかでもっとも太く、直径は約2〜3センチ。最大で毎秒50センチの速度で血液が流れている。

毛細血管となる直前の細動脈の太さは、直径50マイクロメートル。そして毛細血管では、直径約8マイクロメートルまで細くなる。8マイクロメートルというと、髪の毛1本の太さの約10分の1。

どうしてこういうものができたのか、まさに人体の神秘である。

唱歌『むすんでひらいて』の作曲者は……

日本人の誰もが幼い頃に歌ったであろう唱歌のひとつに、『むすんでひらいて』がある。じつは、この曲のもととなるメロディを作曲したのは、

**かの有名なフランスの思想家ルソーである。**

ルソーと言えば『社会契約論』などの著作で知られ、日本にも大きな影響を及ぼした18世紀のフランスの啓蒙思想家。そんなルソーが、あの『むすんでひらいて』を作曲したというと、ちょっと意外な印象を受ける。

だが、確かに歌集を開いてみると、文部省唱歌『むすんでひらいて』には「ルソー作曲」と記されている。

あまり知られていないが、ルソーは音楽家として活動していた時期もあったのだ。

ルソーの研究者であり、モーツァルト研究でも名高い海老沢敏氏によると、ルソーの代表作は1752年に作曲されたオペラ『村の占師』。その第8場にある舞曲「パントミム」のメロディが『むすんでひらいて』の原曲となったという。

このメロディを19世紀に活躍したクラマーが、ピアノ曲を作曲する際に採用し、『ルソーの夢』というタイトルで発表した。これが現在の『むすんでひらいて』とほぼ同じメロディであ

洋服の柄で有名なタータンチェックは……

もとはスコットランドの貴族が、正装する際などに身につけた柄のタータンチェック。今では世界中で愛される柄のひとつとなっており、日本でも女子高生から中高年の男性までが、ファッションに取り入れている柄でもある。

この由緒あるタータンチェックだが、18世紀のスコットランド地方では、

**携帯用の計算用具として使われていた。**

ヨーロッパにおける計算用具の歴史をひもとくと、縦横の線が入った大理石の板に、カルクリと呼ばれる小石を置いて計算するライン・アバカスにたどり着く。

13世紀頃から使われるようになったライン・アバカスは、やがて4本の足をつけてテーブルの形態へと発展していく。

しかし、重宝されたライン・アバカスにもひとつの大きな欠点があった。それは、持ち運びに不便な点。

18世紀のはじめ頃、イギリス中央政府の役人たちは、地方の監査に行く際、タータンチェックの柄が織りこまれた布をたたんで携帯することを思いついた。チェックの柄をアバカスの縦横のラインになぞらえ、そこに小石を置いて計算することを考案したのだ。

ウグイスの「ホーホケキヨ」は……

ウグイスは日本人が親しみを感じる鳥のひとつだろう。昔から和歌や俳句にも多く詠まれてきた。

春になると「ホーホケキヨ」と優雅にさえすることから、「春告げ鳥」とも呼ばれる。ウグイスの鳴き声は、厳しい寒さの冬が終わり、喜びの春が訪れたことを実感させてくれる。

しかし、すべてのウグイスが「ホーホケキヨ」と鳴くわけではない。これは春から夏にかけて、

**繁殖期のオスだけが出す鳴き声である。**

繁殖期のオスは「ホーホケキヨ」というさえずりか、「ピルルルケツキヨケツキヨ」と聞こえる谷渡りという鳴き声を発する。

メスや非繁殖期（秋から冬）のオスは、笹鳴きと呼ばれる「チャツ」という声で鳴く。つまり、「ホーホケキヨ」と鳴くのは、特定の時期のオスに限定されているのだ。

オスの「ホーホケキヨ」というさえずりは、縄張りの宣言とメスを誘う働きがあると言われている。この鳴き声を分析すると、「ホーホ」と「ケキヨ」に分けることができる。「ホーホ」は息を吸いながら、「ケキヨ」は息を吐きながら発声するのだ。

金鳥蚊取り線香の渦巻きを伸ばすと……

日本の夏の風物詩のひとつに、蚊取り線香があげられる。最近では電気仕掛けの製品が広く普及したとは言え、今も風情とあの懐かしい香りがよいと根強い支持を得ている。

蚊取り線香の内部は密度が高く空気が少ないため、ゆっくりと時間をかけて燃える。1巻きの蚊取り線香が燃え尽きるまでには約7時間。つまり、寝ている間もずっと蚊を遠ざけるように考えられている。

それでは、渦巻き状の蚊取り線香をまっすぐに伸ばしたとしたら、その長さはどれくらいになるのか。

75センチになる。

金鳥蚊取り線香を製造する大日本除虫菊株式会社によれば、この長さこそが、長時間使える蚊取り線香のポイントのひとつだという。

同社が初の蚊取り線香の開発に成功して販売を開始したのは、1890（明治23）年のこと。このときは渦巻き状ではなく棒状だった。

しかし、これではすぐに線香は終わってしまう。創業者の上山英一郎氏は妻のアイデアをもとに、5年後の明治28年に渦巻き状へと改良し、これを金鳥と名づけて販売した。

ワールドカップやオリンピックで歌われている『君が代』だが……

卒業式をはじめ慶事けいじのときや国際的なスポーツ大会で歌われる『君が代』。しかし君が代は、

**これまで少なくとも3種類の異なるメロディがあった。**

最初に『君が代』が作曲されたのは明治維新後まもない1869（明治2）年のこと。

やすけ いわお

大山弥介（後の大山巖元帥）が用意した日本の古歌に、当時西洋音楽を指導していたイギリス人J・W・ウェントンが曲をつけたものだ。しかし、歌詞と曲調が合わないと不評を買う。

そこで1880（明治13）年、同じ歌詞に宮内省の雅楽課が新たに曲をつけた。ここに第2の君が代が生まれ、現在も歌われているメロディが誕生した。

ひろもり

よしいさ

作曲者は課内の林広守とされているが、実際の作曲者は奥好義だという説が有力になっている。それを、課内の筆頭だった林の名前で出したというわけだ。

ところが、2年後の1882（明治15）年には新たな動きがあらわれる。文部省が音楽取調掛に国歌をつくるよう命令を出し、6曲の候補曲が用意された。そのひとつが、第3の君が代である。

## 遭難信号をあらわす「SOS」に……

映画やドラマに頻繁に登場するためか、救助を求める信号が「SOS」であることは、世界中の多くの人の共通語であろう。日本においても例外ではなく、会話のなかで助けを求める表現に「SOSだ」という言葉が使われる。

ところが、なぜ救助信号が「SOS」と決まったのかという理由について知る人はほとんどいない。多くの人が「SOS」が何かの略字だと思っているようだ。

よく聞くのが「Save Our Ship（我らの船を救助せよ）」の頭文字をとったとするもの。しかし、これはどうやらこじつけだと考えられている。「SOS」という言葉に

**意味はない。**

関東総合通信局に尋ねたところ、はっきりと理由を述べた資料は現存していないと断りながらも、単純で伝えやすい信号だからという。

「SOS」をモールス信号であらわすと、「トントントン・ツーツーツ・トントントン」となる。この信号が単純なため、緊急の場合でも間違えにくいからというのが、もっとも有力な説であるようだ。

深海底5000メートルの太平洋と大西洋を比較すると……

深海の様子は、どこのお海でもそれほど変わりはないなどと単純に考えてはいないだろうか。

地球を代表する太平洋と大西洋の深海底は、まったく異なる世界が広がっている。深さ5000メートルの深海底をもし光で照らし出したら、

**太平洋は赤茶けた色を、大西洋は白っぽい色をしている。**

太平洋が赤茶けた色をしているのは、風によって運ばれてきた泥粒が堆積して赤粘土になっているため。

「穏やかな海」という意味のポルトガル語に由来する太平洋 (Pacific Ocean) だが、洋上で台風が吹き荒れたり、海底火山の爆発があるなど、決して穏やかではない。

激しい活動の影響を受け、泥粒が海底へ運ばれやすい環境にある。

一方の大西洋の深海底が白っぽく見えるのは、石灰質の殻を持つプランクトンの遺骸が積もり積もったため。

大西洋にも泥粒は運ばれてくるが、石灰質の殻のほうに10倍も多いので、泥粒の赤茶けた色が目立たない。

逆に、太平洋でもプランクトンの遺骸は降ってくる。

「紅一点」の「紅」とは女性のことでなく……

こう

「紅一点」という言葉は、男性ばかりのスポーツチームに女性がただひとり交じっていたり、バンドメンバーのなかで女性がただひとりなどというときに使われる。

この「紅一点」は、もともと草原のなかに一輪の花が咲いている情景を歌ったものだった。その花とはザクロの花。つまり、女性を指していたのではなく、

**もともとザクロの花を意味していた。**

これが転じて、唯一異彩を放つものという意味で使われるようになった。さらにそれが、多数の男性のなかに、ひとりだけ女性が交じっていることを示す言葉へと意味が派生したのだ。

おうあんせき

「紅一点」が生まれたのは、宋の時代の中国。王に仕えた王安石が考えた言葉だと言う。卓越

ざくろ

した文章家としても知られていた王安石が書いた『石榴の詩』のなかに「紅一点」という言葉が登場する。

ばんりよくそうちゆう

万緑 叢中に紅一点あり

もち

人を動かすの春色多きを須いず

動物園で見かけるゴリラの学名は……

動物や植物の学名というと、一般的な動物名や植物名とは遠くかけ離れた、訳のわからないような長たらしい名前が与えられているものだ。

その点、日本の動物園に欠かすことのできない存在とも言えるゴリラの学名は、誰が聞いても間違えようのない学名である。その名も

**ゴリラ・ゴリラ・ゴリラである。**

ゴリラの3連発。学名ゴリラ・ゴリラ・ゴリラと命名されたのは、西ローランドゴリラと呼ばれる種類のゴリラ。ゴリラをどのように分類するかという問題は、研究者の間でいまだに議論が交わされている段階である。

現在もっとも一般的なのは、中央アフリカからカメルーンなどを中心に生息する西ローランドゴリラ、ナイジェリアの南部などに生息する東ローランドゴリラ、そしてウガンダやルワンダの山中に生息するマウンテンゴリラの3種に分類する説である。

このうち、もっとも生息数が多いと考えられている西ローランドゴリラは丸顔で、鼻柱に唇状の突起があるのが特徴だ。ほかのゴリラ種にはこの突起が見られない。

日本を含む世界の動物園にいるゴリラは、ほとんどがこの西ローランドゴリラである。

三菱鉛筆で線を引きつつけると……

シャープペンシルやパソコンの普及でやや影が薄くなったものの、今でもモノを書くのは鉛筆に限るとい人がいる。

ところで、この鉛筆1本ですっと線を引いていくと、どのくらいの距離になるのだろうか。

三菱鉛筆株式会社によると、その距離は約50キロ。

**1本で50キロの線を書くことができる。**

この距離を割り出すために、同社では筆圧や角度を一定に保つことができる機械を用い、円を描く方法で測定。

芯を削っていくのではなく、外側の木の部分が減っていくしくみになっていた。そして、ある程度円を描いた時点で、消費された芯の量から鉛筆1本分の距離を計算。

そうして導き出されたのが約50キロという距離なのだ。ちなみに、測定にはHBの濃さの鉛筆が採用された。

芯の硬さによって書き味が異なってくるが、日本では現在9Hから6Bまでの17種類の芯で鉛筆が製造されている。

神社で見かける狛犬は……

神社の門前などに対で置かれている狛犬<sup>こまいぬ</sup>。日本最古の狛犬と考えられているのは、東大寺の南門にある石造の狛犬だ。

これは、鎌倉時代に宋の人が彫ったものと言われている。この狛犬を見ると、犬と呼んでいくせにふさふさとした渦巻き状の毛が生えている。「ほんとうに犬なのか？」と疑問を抱いた人は正解。じつは、

**犬ではなく想像上の獣である。**

神社本庁によると、日本に狛犬が伝播してきたのは唐の時代とも宋の時代とも言われており、はっきりしていない。

神社に置かれるものというイメージが強いが、かつては宮中内に権威の象徴として飾られたり、記帳台の上に置く文鎮<sup>ぶんちん</sup>として用いられたりしたこともあるという。

狛犬の起源は、ペルシャやインド地方にある。それがシルクロードを経て、はるばる日本まで<sup>こま</sup>伝えられたのだ。日本での狛犬の成り立ちについてはさまざまな説があるが、朝鮮半島の高麗から伝わったということは確認されている。

北極ではイヌぞりが活躍するが……

南極と北極は、かつてはどちらも未知の大陸としてさかんに冒険が挑まれた場所。極寒の地で、冒険家たちの移動手段として重宝されたのがイヌぞりである。

その後、雪上車の登場とともに、イヌぞりの姿はあまり見られなくなってきた。それでも、北極では今もイヌぞりが使われている。

ロシアの北極圏で暮らす先住民は、イヌぞりを使ってアザラシ猟を行なっているのだ。ところが、現在このイヌぞり、

**南極では使えない。**

その理由は1959年に採択された南極条約にある。

条約内で、南極大陸にもともと生息していない生物の持ち込みが禁止されてしまったのだ。繁殖力の強い動物が持ち込まれて野生化し、南極固有の生態系を破壊するのを防ぐというのがその目的。

こうして南極固有の動物ではないイヌは、北極圏では活躍できるが、条約が規定する南緯60度以南の南極地域では活躍の場を失ったのだ。

かつて大ヒットした日本映画に『南極物語』がある。

ひとネタで、相手の心をすぐつかむ  
うける！雑学

著者：日本博学倶楽部

©Nihon Hakugaku Kurabu

この電子書籍は『うける！雑学』二〇〇六年四月一七日第一版第一刷発行を底本としています。

電子書籍版

発行者：安藤卓

発行所：株式会社PHP研究所

東京都千代田区一番町二一番地

〒102-8331

digital@book-chase.com

製作日：二〇一〇年一月一四日

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。